

教科・科目	対象学科 ・学年	単位数	教科書	使用教材	
国語・ 現代の国語	普通科 ・1年	2	高等学校現代の国語（第一学習社）	新訂総合国語便覧（第一学習社） 書いて覚える漢字練習ノート二訂版（京都書房） 現代の国語学習課題集（第一学習社）	
科目の概要 と目標	<p>・生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。</p> <p>・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>・言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。</p>				
月	単元	学習内容	評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	表現編 話して伝える	「話し方の工夫」 「待遇表現」など	・相手・目的・場面を考慮した表現方法を理解している。	・学習を生かして相手・目的・場面を考慮し、積極的に表現しようとしている。【話す・聞く】	・進んで表現や話し方を工夫し、今までの学習を生かして効果的に話そうとしている。
	理解編1 理解編2	『「生きもの」』として生きる』『本当の自分』幻想「水の東西」「ものごとことば」	・常用漢字を文の中で活用している。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。	・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、論理の展開を的確に捉え、内容を解釈している。【読む】 ・本文の主題や論理構成を踏まえて自分の意見や考えを論述している。【書く】	・粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿ってまとめようとしている。
	論理分析	『「間」の感覚』『日本語は世界をこのように捉える』	・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。	・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。【読む】	・論理の展開を粘り強く分析し、今までの学習を生かして筆者の主張をまとめようとしている。
	理解編1	「羅生門」	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・修辞を理解している。 ・読書の意義を理解している。	・下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取るなどして、自分の意見や考えを論述している。【書く】	・自分の意見や考えを論述するために、文章構成や論理の展開の仕方を捉えようとしている。 ・内容の解釈を踏まえて表現の仕方を工夫して書こうとしている。
	理解編2	「砂に埋もれたル・コルビュジエ」	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・修辞を理解している。 ・読書の意義を理解している。	・父との過去の会話を重層的に描いた構成を把握し、根拠の示し方を工夫して自分の意見や考えを論述している。【書く】	・自分の意見や考えを論述するために、文章の内容や構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉えようとしている。
9 ・ 10 ・ 11 ・ 12	理解編3 理解編4	「無彩の色」「『文化』としての科学」「現代の『世論調査』」「フェアな競争」	・常用漢字を文の中で活用している。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。	・主題について文章構成をもとに把握し、文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈している。【読む】 ・自分の考えなどが的確に伝わるように、根拠の示し方や説明の仕方を工夫している。【話す・聞く】	・粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿ってまとめようとしている。
	論理分析	『「私作り」とプライバシー』『AIは哲学できるか』	・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。	・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。【読む】	・論理の展開を粘り強く分析し、今までの学習を生かして筆者の主張をまとめようとしている。
	理解編3	「夢十夜」	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・修辞を理解している。 ・読書の意義を理解している。	・「夢」という非日常性を持った世界において、「自分」は何を判断の根拠としているかを読み解くなどして、自分の意見や考えを論述している。【書く】	・自分の意見や考えを論述するために、文章の内容や構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉えようとしている。
	理解編4	「鏡」	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・比喩などの修辞を理解している。	・恐怖体験の一つとして語られる、幽霊でも超常現象でもない、人の内面に潜む恐怖とは何かを読み解くなどして、自分の意見や考えを伝えている。【話す・聞く】	・自分の意見や考えを論述するために、文章の内容や構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉えようとしている。
1 ・ 2 ・ 3	理解編5	「不均衡な時間」 「ロビンソンの人間と自然」	・常用漢字を文の中で活用している。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。	・文章に含まれている情報を相互に関係づけて解釈し、構成や論理展開を的確に捉え、要旨を把握している。【読む】	・粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿ってまとめようとしている。
	論理分析	「デザインの本意」 「『動機の語彙論』という視点」	・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。	・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。【読む】	・論理の展開を粘り強く分析し、今までの学習を生かして筆者の主張をまとめようとしている。
	理解編5	「城の崎にて」	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・比喩などの修辞を理解している。	・構成を読み取り、作中に示された死生観について考えを深めるなどして、自分の意見や考えを論述している。【書く】	・自分の意見や考えを論述するために、文章の内容や構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉えようとしている。
	理解編6	「法律の改正に関わる文章を読み比べる」「日本の労働問題に資料を読み比べる」など	・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方を理解し、活用している。	・異なる形式で書かれた複数の文章を読み、理解している。【読む】 ・読み手からの助言を踏まえて、目的に応じて書いたり話したりする方法を修正している。【書く】【話す・聞く】	・理解したことを学習課題に沿ってまとめようとしている。 ・複数の文章から読み取った情報を粘り強く吟味し、表現の仕方を工夫してまとめようとしている。

教科・科目		対象学科 ・学年	単 位 数	教 科 書	使 用 教 材
国語・現代の 国語		工業科 商業科・ 1 学年	2	新編 現代の国語（数研出版）	新編現代の国語 準拠ワーク（数研出版） 新訂総合国語便覧（第一学習社） 書いて覚える漢字練習ノート 二訂版（京都書房）
科目の概要 と目標		<ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができる。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって事自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 			
月	単 元	学 習 内 容	評 価 方 法		
			知 識 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
4	書き手の意図をつかむ 書き言葉の技術	・目指す世界の地図を作る ・ものづくり ・(文章トレーニング1) 文章構造を理解する	・話し言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解している。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	・筆者の意図や表現上の工夫を的確に読み取り、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。
5	文章の展開を把握する	・時間とは何か ・地球を旅する水の話	・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	・筆者の考えを粘り強く理解し、適切な表現を用いて、学習課題に沿って論理的にまとめようとしている。
6	話し言葉の技術 対比を読み取る	・(適切に話す・聞く)スピーチ ・水の東西	・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。 ・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。	・「話すこと・聞くこと」において、話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫している。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	・相手に伝わるスピーチのしかたについて粘り強く検討し、学習課題に沿って適切に話したり聞いたりしようとしている。 ・筆者の意見を踏まえた事例について粘り強く考察し、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。
7	対比を読み取る 日常の中の文章	・里山物語 ・写真を文章で説明する	・比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解している。 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ・「書くこと」において、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。	・筆者の主張を粘り強く読み解いて自分の考えを深め、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。 ・課題資料が示す内容を積極的に読み取り、読み手に伝わりやすい表現を工夫して、学習課題に沿って説明しようとしている。
9	言葉の働きをとらえる	・語感トレーニング	・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	・筆者の意見を踏まえて具体的な事例を積極的に考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。
10	コミュニケーションと言葉	・世間話はなぜするか ・非言語コミュニケーション	・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・「読むこと」において、目的に応じて、文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈するとともに、自分の考えを深めている。	・具体的な事例について筆者の主張をもとに粘り強く考察し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。
11	書き手の考えを比較する	・科学と非科学 ・(探究の扉)科学的とはどういう意味か。	・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。	・「話すこと・聞くこと」において、目的に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。	・筆者の意見を踏まえて積極的に具体的な事例を考え、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。
12	言葉の働きをとらえる	・コインは円形か	・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。	・「読むこと」において、目的に応じて、文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、内容を解釈するとともに、自分の考えを深めている。	・筆者の意見や【例】を参考にしながら積極的に自分の考えを深め、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。
1	日常の中の文章 話し言葉の技術	・広告コピーを書く ・(話し合いの方法) ディベート・討議	・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。 ・推論の仕方を理解し使っている。	・「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価している。 ・「話すこと・聞くこと」において、論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的に応じて、結論の出し方を工夫している。	・課題資料を参考にしながら、伝わりやすい形式・表現を積極的に工夫し、学習課題に沿って適切に広告コピーを作成しようとしている。 ・ディベートにおける論理の一貫性について進んで検討しようとしている。また、ディベートを踏まえて、自分の考え方について振り返り、積極的に話し合おうとしている。
2	根拠を読み取る	・「差」という情報 ・「わらしべ長者」の経済学	・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	・筆者の意見を踏まえて積極的に自分の考えを深め、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。
3	社会の中の文章	・グラフをもとに話し合う	・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。	・「書くこと」において、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。	課・題資料を参考にしながら積極的に調査を行い、学習課題に沿って適切に資料を作成しようとしている。

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材	
国語・言語文化	普通科・1学年	3	高等学校 言語文化 (第一学習社)	高等学校 言語文化 学習課題集 (第一学習社) 新訂総合国語便覧 (第一学習社) 三訂版完全傍訳やさしくくわしい古典文法 (尚文出版)	
<p>科目の概要と目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 					
月	単元	学習内容	評価方法		
			知識技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	古文入門	・児のそら寝 ・絵仏師良秀 ・なよ竹のかぐや姫	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	・積極的に説話を読み、叙述に基づいて人物造形のおもしろさを捉えようとしている。 ・用言の活用について理解し、学習の見通しをもって活用形を調べようとしている。
5	漢文入門	・訓読に親しむ (一) ・訓読に親しむ (二)	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・「読むこと」において、文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	・これからの学習に見通しをもって、漢文訓読の基礎知識を積極的に身につけようとしている。
6	故事成語	・漁夫之利 ・狐借虎威 ・蛇足	・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	・故事成語の由来となった話を積極的に読み、わかった内容を工夫してまとめようとしている。
7	歌物語	・東下り ・筒井筒	・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などに理解を深めている。	・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	・歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしている。
9	近現代の詩歌	・その子二十 ・こころの帆	・我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。	・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	・短歌の形式や表現を進んで理解し、学習の見通しをもって短歌文芸に親しもうとしている。
10	随筆 (一)	・枕草子	・時間の経過による言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解を深めている。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	・学習の見通しをもって随筆のさまざまな文体や取り上げられた対象に触れ、進んで解釈を深めようとしている。
11	史伝	・先従隗始 ・臥薪嘗胆	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解を深めている。	・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	・積極的に史伝の特徴を理解し、たとえ話における論理を説明しようとしている。
12	近現代の詩歌	・贅のうへ ・一つのメルヘン ・自分の感受性くらい ・I was born	我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。	・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。	・描かれた情景を読み取り、進んで作者の心情について話し合おうとしている。
1	随筆 (二)	・徒然草	・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。	・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	・本文中に表れた作者の批判・教訓・感動などを積極的に読み取り、考えたことを伝え合おうとしている。
2	漢詩軍記物語	・漢詩の世界 ・平家物語	・表現の技法とその効果について理解している。 ・和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。	・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	・漢詩のきまりを進んで理解し、学習の見通しをもって漢詩を鑑賞しようとしている。 ・作品に表れている無常観を粘り強く読み取り、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。
3	思想古典の詩歌	・論語 ・奥の細道	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解を深めている。 ・古典の世界に親しむために、作品の歴史的・文化的背景などに理解を深めている。	・「読むこと」において、文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	・『論語』が我が国の文化に及ぼした影響について理解し、孔子の理想とするところを粘り強く説明しようとしている。 ・俳諧紀行文の特徴を積極的に理解し、学習課題に沿って作者の感じ方や考え方を捉えようとしている。

教科・科目	対象学科 ・学年	単 位 数	教科書	使用教材	
国語・ 言語文化	普通科・ 1学年 (体育コース)	2	高等学校 言語文化 (第一学習社)	高等学校 言語文化 学習課題集 (第一学習社) 新訂総合国語便覧 (第一学習社) 三訂版完全傍訳やさしくくわしい古典文法 (尚文出版)	
科目の概要 と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 				
月	単 元	学 習 内 容	評価方法		
			知識 技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	古文入門	・児のそら寝 ・絵仏師良秀 ・なよ竹のかぐや姫	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	・積極的に説話を読み、叙述に基づいて人物造形のおもしろさを捉えようとしている。 ・用言の活用について理解し、学習の見通しをもって活用形を調べようとしている。
5	漢文入門	・訓読に親しむ (一) ・訓読に親しむ (二)	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・「読むこと」において、文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	・これからの学習に見通しをもって、漢文訓読の基礎知識を積極的に身につけようとしている。
6	故事成語	・漁夫之利 ・狐借虎威	・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	・故事成語の由来となった話を積極的に読み、わかった内容を工夫してまとめようとしている。
7	歌物語	・東下り ・筒井筒	・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などに理解を深めている。	・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	・歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしている。
9	近現代の 詩歌	・その子二十 ・こころの帆	・我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。	・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	・短歌の形式や表現を進んで理解し、学習の見通しをもって短歌文芸に親しもうとしている。
10	随筆(一)	・枕草子	・時間の経過による言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解を深めている。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	・学習の見通しをもって随筆のさまざまな文体や取り上げられた対象に触れ、進んで解釈を深めようとしている。
11	史伝	・先従隗始 ・臥薪嘗胆	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解を深めている。	・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	・積極的に史伝の特徴を理解し、たとえ話における論理を説明しようとしている。
12	近現代の 詩歌	・贅のうへ ・一つのメルヘン ・自分の感受性くらい ・I was born	我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。	・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。	・描かれた情景を読み取り、進んで作者の心情について話し合おうとしている。
1	随筆(二)	・徒然草	・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。	・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	・本文中に表れた作者の批判・教訓・感動などを積極的に読み取り、考えたことを伝え合おうとしている。
2	漢詩	・漢詩の世界	・表現の技法とその効果について理解している。	・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。	・漢詩のきまりを進んで理解し、学習の見通しをもって漢詩を鑑賞しようとしている。
3	軍記物語	・平家物語	・和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	・作品に表れている無常観を粘り強く読み取り、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。

教科・科目	対象学 科 ・学年	単 位 数	教科書	使用教材	
国語 ・言語文化	工業科 商業科 ・1年	2	新編 言語文化 (数研出版)	新編言語文化 準拠ワーク (数研出版) 新訂総合国語便覧 (第一学習社) ビギナーズ古典 (尚文出版)	
科目の概要 と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 				
月	単 元	学習内容	評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	古文編 古文の世界を楽しむ	『宇治拾遺物語』	・文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。	・積極的に見と備の様子や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。
5	漢文編 日本語の中に生きる漢文	「訓読のきまり」 「格言」	・漢文訓読の基礎を理解している。	なし	・漢文訓読の基礎知識を積極的に身につけようとしている。
6	近現代編 地域の「ことば」 「ことば」を吟味する 受け継がれる古典	「とんかつ」 「舟を編む」 「羅生門」	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・比喩などの修辞を理解している。 ・読書の意義と効用を理解している。	・効果的な表現や難解な語句に留意し、話の展開や主題を読み取っている。 ・描かれた場面の状況から登場人物の心情を理解している。	・自分の意見や考えを論述するために、文章構成や論理の展開の仕方を捉えようとしている。 ・内容の解釈を踏まえて下人の行為を評価し、表現の仕方を工夫して書こうとしている。
7	古文編 和歌が作り出す世界 近現代編 詩歌を味わう	『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』 「六月」「サーカス」「短歌」 「俳句」	・我が国の言語文化に特徴的な和歌の表現の技法とその効果について理解する。 ・修辞技法を理解する。	・和歌や詩歌という文章の種類を踏まえて、情景や心情など、内容や展開を的確に捉えている。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。	・修辞技法を進んで理解し、学習の見通しをもって和歌文芸の特徴を捉えようとしている。 ・学習内容を生かして意欲的に和歌や詩歌の制作に努めている。
9	古文編 現代にも生きる教え 近現代編 語感を磨く	『徒然草』 「側転と三夏」	・文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	・作者の批判的精神が提示する事柄を読み解いている。 ・随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉えている。	・随筆の内容や構成などを把握し、学習課題に沿って説明しようとしている。 ・本文中に表れた作者の批判・教訓・感動などを積極的に読み取ろうとしている。
10	漢文編 故事と成語	「助長」「漁夫の利」「虎の威を借る狐」「管鮑の交わり」	・漢文訓読の基礎を理解している。	・故事成語のもとになった話の内容を捉えた上で、故事成語の現在使われている意味について理解している。	・故事成語の由来となった話を積極的に読み、わかった内容を工夫してまとめようとしている。
11	古文編 昔と変わらない人の心 近現代編 「ことば」の力	『伊勢物語』 「葉桜と魔笛」	・文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	・話の中で和歌が果たしている役割や歌物語の特徴を理解した上で内容を解釈している。	・歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしている。
12	漢文編 漢詩を味わう 近現代編 文体の魅力	「中国の漢詩」 「日本の漢詩」 「名人伝」	・作品の歴史的・文化的背景を理解している。 ・漢詩のきまりを理解している。	・表現や技法(押韻や対句)に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取っている。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。	・漢詩のきまりを進んで理解し、学習の見通しをもって漢詩を鑑賞しようとしている。 ・粘り強く漢詩を読み比べ、よまれた情景や心情を説明しようとしている。
1	古文編 戦時下の人間像	『平家物語』	・文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現を理解している。	・作品に表れている無常観や武士の生き方を捉え、内容を解釈している。	・作品に表れている無常観を粘り強く読み取り、自分の考えを深めようとしている。
2	漢文編 論語のことば 近現代編 記録する文学	『論語』 「沖縄の手記から」	・訓読のきまりを理解している。 ・現代との言葉のつながりを理解している。	・孔子のものの見方や考え方を理解している。 ・文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉えている。	・孔子の理想とするところを粘り強く説明しようとしている。
3	古文編 先人を思う旅	『おくのほそ道』	・文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	・作品に表れた作者の思想や心情を捉えている。 ・俳諧紀行文という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉えている。	・俳諧紀行文の特徴を積極的に理解し、学習課題に沿って作者の感じ方や考え方を捉えようとしている。

教科・科目		対象学科 ・学年	単 位 数	教科書	使用教材
地理歴史・ 歴史総合		普通科1年 工業科1年 商業科1年	2	現代の歴史総合（山川出版社）	新詳 歴史総合(浜島書店)
科目の概要 と目標		おもに18世紀以降の時代を扱う。 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。			
月	単 元	学 習 内 容	評価方法		
			知識 技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り 組む態度
4月 ～ 7・ 8月	第1章 第2章 第3章	・18世紀の東アジアにおける社会と経済 ・貿易が結んだ世界と日本 ・産業革命～市民革命 ・国民国家とナショナリズム～植民地独立 ・生活様式の変化 ～ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭	・諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。	・近現代の歴史の変化に関わる諸事象を、広く相互的な視野から捉え、表現する。	・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、課題を主体的に追究、解決する態度を養う。
9月 ～ 12月	第4章 第5章	・ヴェルサイユ体制とワシントン体制 ～世界恐慌の時代 ・ファシズムの伸長と共産主義 ～占領と戦後改革 ・冷戦下の地域紛争と脱植民地化 ～軍拡競争から緊張緩和へ	・地図や統計、絵画、文書などから、情報を読みとりまとめる技能を身につける。	・様々な資料を活用し、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史について考察・表現する。 ・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、比較・関連づけ、考察し表現する。	・大衆化にともなう生活や社会の変容について考察し、自分自身の問いを見つける。 ・自身が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことを見出して学習に取り組む。
1月 ～3月	第6章	・アジア諸地域の経済発展 ～東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化 ・アジア諸地域の経済発展	・資料から問いを立て、経緯や背景、共通点や相違点という視点から整理することができる。	・歴史的な見方や考え方を活用することで、現在の課題解決に結びつけることができる。 ・「近代化と私たち」の学習を振り返り、次の学習へのつながりや課題を見いだそうとする。	・自身が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことを見出して学習に取り組もうとする。 ・分析や考察の結果を他者と共有・比較し、自身の考えをより良いものに改善しようとする。

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
地理歴史・地理総合	普通科 2年	2	わたしたちの地理総合(二宮書店) 新詳高等地図(帝国書院)	新詳地理資料 COMPLETE(帝国書院) サクシード地理(啓隆社)
科目の概要と目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
学期	単元	学習内容	到達度目標	
1	地図とGISの活用	1 球面上の世界 2 世界からみた日本の位置と領域 3 国内や国家間の結びつき 4 暮らしのなかの地図とGIS	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの地図に興味を持ち、意欲的に地図の知識を活用できたか。 ・世界地図の主な図法と利用について理解できたか。 ・国家の領域に関する知識を身につけ、日本の領土問題について歴史的背景と空間的広がりを理解できたか。 ・GISの特徴や利用方法、そのしくみについて理解し、GISで作成した地図を重ね合わせ、地域の特徴を分析する方法を身につけたか。 	
	地理的環境の特色	1 地形と生活文化 2 気候と生活文化	<ul style="list-style-type: none"> ・地形についての知識を身につけ、世界的視野から地形の分布の特徴を捉えることができたか。 ・地形図や分布図、写真、模式図の読み取りに意欲的に取り組んだか。 ・雨温図や写真の判読を通じて、世界各地の気候や生活文化の対応について意欲的に探究できたか。 ・雨温図やハイサーグラフなどの気候資料の作成に意欲的に取り組んだか。 	
2		3 産業と生活文化 4 宗教・言語と生活文化	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な商品が世界規模の産業構造の中に位置づけられることを意欲的に探究できたか。 ・産業が発達し続けていることを、時事的話題とともに意欲的に捉えようとしたか。 ・世界の宗教の特徴をまとめ、身近な地域の外国人の受け入れなどと関連させて追究できたか。 	
3	世界各地の生活文化 地球的課題と国際協力		<ul style="list-style-type: none"> ・図版や写真から産業の発達や地域統合を捉え、自然環境や言語、宗教と関連づけて整理できたか。 ・産業の発達と地域統合が生活文化に与えた影響を理解できたか。 ・言語や宗派の違いを乗り越えEUが統合する背景を理解できたか。 	

教科・科目		対象学科 ・学年	単 位 数	教 科 書	使 用 教 材
公民・公共		普通科2年 工業科2年 商業科2年	2	公共（教育図書）	フォーラム公共 2024(東京法令) 高等学校公共ワークノート (教育図書)
科目の概要 と目標		現代社会の諸課題についての基本的な知識を身につけるとともに、課題解決のために主体的に考え、判断する能力を身につけることを目指す。社会的課題に対する見方、考え方は様々であり、多面的であることを重視しながら、その複数性の中で考え、対話を通じて合意形成することを目指す。公共的存在としての能力を養いながら、社会の参画者であることの自覚を深めることを目標とする。			
月	単 元	学 習 内 容	評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 7月	1 公共 の扉 人 倫理 基本原 理 2 現代 社会の 諸課題 法	<ul style="list-style-type: none"> ・人は一人では生きられない～日本の公共思想 ・功利主義と義務論～民主政治の歴史 ・日本国憲法の三つの原理～表現の自由とヘイトスピーチ ・法と社会 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身が公共的空間の主体となり、自分のキャリア形成とともにより良い社会の形成に結びつくことについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会・国家社会などの公共的空間をつくる協働的な存在であることについて、自分事として多面的・多角的に考察し、アイデアを構想し、自説を効果的に説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな社会的課題を身近な話題に引き付け、自分事として理解し、対話を通じ合意形成を目指しながら、主体的に解決する態度を身につけている。
9月 ～ 12月	現代社会の諸 課題 政治 経済	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な契約～公正な世論の形成 ・選挙と政治参加～国家主権と領土 ・安全保障と防衛～国際社会と日本 ・職業選択～労働者の権利 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な資料を活用し、法、政治、経済などに関する現代的な特色に関わる必要な知識や技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・解決が求められる具体的な主題を設定し、その主題解決に向け、事実をもとに協働して考察しながら、将来的な構想を論拠をもって表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より良い社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度が身につく、公共的空間に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めている。
1月 ～ 3月	現代社会の諸 課題 情報 3 持続 可能な 社会へ	<ul style="list-style-type: none"> ・財政の役割～市場経済の役割と限界 ・金融のはたらき～格差是正と多文化主義 ・つながりっぱなしの私～現代と私たち ・社会研究の方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会参画の具体的な実践例を参考にし、調査・表現方法、課題解決に向けた協働の方法を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容をもとに具体的な社会的課題に対し、見方・考え方を働かせ、これを適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共での学びが知識の習得、思考力や表現力の獲得にとどまらず、自分事として捉えながら、主体として社会に参画する態度を身につけている。

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
地理歴史・地理総合	工業科 商業科 3年	2	わたしたちの地理総合(二宮書店) 新詳高等地図(帝国書院)	世界の諸地域 NOW(帝国書院)
科目の概要と目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
学期	単元	学習内容	到達度目標	
1	地図とGISの活用	1 球面上の世界	・身の回りの地図に興味を持ち、意欲的に地図の知識を活用できたか。	
		2 世界からみた日本の位置と領域	・世界地図の主な図法と利用について理解できたか。	
	3 国内や国家間の結びつき	・国家の領域に関する知識を身につけ、日本の領土問題について歴史的背景と空間的広がり理解できたか。		
	4 暮らしのなかの地図とGIS	・GISの特徴や利用方法、そのしくみについて理解し、GISで作成した地図を重ね合わせ、地域の特徴を分析する方法を身につけたか。		
地理的環境の特色	1 地形と生活文化	・地形についての知識を身につけ、世界的視野から地形の分布の特徴を捉えることができたか。 ・地形図や分布図、写真、模式図の読み取りに意欲的に取り組んだか。		
	2 気候と生活文化	・雨温図や写真の判読を通じて、世界各地の気候や生活文化の対応について意欲的に探究できたか。 ・雨温図やハイサーグラフなどの気候資料の作成に意欲的に取り組んだか。		
2		3 産業と生活文化	・身近な商品が世界規模の産業構造の中に位置づけられることを意欲的に探究できたか。 ・産業が発達し続けていることを、時事的話題とともに意欲的に捉えようとしたか。	
		4 宗教・言語と生活文化	・世界の宗教の特徴をまとめ、身近な地域の外国人の受け入れなどと関連させて追究できたか。	
3	世界各地の生活文化 地球的課題と国際協力		・図版や写真から産業の発達や地域統合を捉え、自然環境や言語、宗教と関連づけて整理できたか。 ・産業の発達と地域統合が生活文化に与えた影響を理解できたか。 ・言語や宗派の違いを乗り越えEUが統合する背景を理解できたか。	

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
数学 I		1年 普通科	3	新編 数学 I (数研出版)	教科書傍用 3TRIAL 数学 I +A (数研出版) チャート式 解法と演習 I +A (数研出版)
科目の概要と目標		数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			
月	単元	学習内容	評価方法		
			知識技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 5	数と式	多項式の加法と減法 多項式の乗法 因数分解 実数 根号を含む式の計算 不等式の性質 1次不等式 絶対値を含む 方程式・不等式	たすきがけによる因数分解およびやや複雑な因数分解ができる。 不等式の性質を理解し1次不等式が解ける。 絶対値のついた方程式・不等式が解ける。 整式に関する用語を確認し、加法・減法・乗法の計算ができる。 有理数・無理数・分母の有理化等の用語が定着し、計算ができる。 数の大小を不等号であらわすことができる。	式を1つの文字におき換えることによって、式の計算を簡略化することができる。 式の形の特徴に着目して変形し、因数分解の公式が用できるようなことができる。 複雑な式についても、項を組み合わせる、降べきの順に整理するなどして見通しをよくすることで、因数分解をすることができる。	多項式の乗法には、数の場合と同様に分配法則が使えることに興味をもち、考察しようとする。 ・不等式の性質について、等式における性質と比較して、考察しようとする。 展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。 式の変形、整理などの工夫において、よりよい方法を考察しようとする。
6	集合と命題	集合 命題と条件 命題とその逆・対偶・裏 命題と証明	命題の真偽、反例の意味を理解し、集合の包含関係や反例を調べることで、命題の真偽を決定することができる。 必要条件、十分条件、必要十分条件、同値の定義を理解している。 空集合、共通部分、和集合、補集合について理解している。 命題の逆・対偶・裏の定義と意味を理解し、それらの真偽を調べることができる。	条件を満たすものを集合の要素としてとらえることができる。 ・命題の条件や結論に着目し、命題に応じて対偶の利用や背理法の利用を適切に判断することで、命題を証明することができる。 条件を満たすものを集合の要素としてとらえることができる。 ・題が偽であることを示すには、反例を1つあげればよいことが理解できている。	直接証明法では難しい命題も、対偶を用いた証明法や背理法を用いると鮮やかに証明できることに興味・関心をもち、実際に証明しようとする。 命題とその対偶の真偽の関係について考察しようとする。
7 9	2次関数	関数とグラフ 2次関数のグラフ 2次関数の最大・最小 2次関数の決定 2次方程式 2次関数のグラフとx軸の位置関係 2次不等式	2次関数を $y=a(x-p)^2+q$ の形に式変形して、最大値、最小値を求めることができる。 2次方程式の解き方として、因数分解、解の公式を理解している。 2次不等式を解くことができる。 $f(x)$ や $f(a)$ の表記を理解し、用いることができる。 2次関数のグラフとx軸の共有点の個数を求めることができる。	2次関数の値の変化をグラフから考察することができる。 2次関数の決定において、条件を処理するのに適した式の形を判断することができる。 2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を $D=b^2-4ac$ の符号から考察することができる。 2次関数の特徴について、表、式、グラフを相互に関連付けて多面的に考察することができる。 2次関数 $y=ax^2+bx+c$ のグラフを、 $y=ax^2$ のグラフをもとに考察することができる。	放物線の平行移動や対称移動の一般公式を考察しようとする。 放物線のもつ性質に興味・関心を示し、自ら調べようとする。 一般の2次関数 $y=ax^2+bx+c$ について、頂点、軸の式を考察しようとする。 2次不等式を解くときに、図を積極的に利用する。
10 11	三角比	三角比 三角比の相互関係 三角比の拡張 正弦定理 余弦定理 正弦定理と余弦定理の応用 三角形の面積 空間図形への応用	直角三角形において、正弦、余弦、正接が求められる。 $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ において、三角比の値から θ を求めることができる。 また、1つの三角比の値からの残りの値を求めることができる。 正弦定理・余弦定理を利用して三角形の辺や角を求めることができる 三角比を利用して、平面図形や空間図形における線分の長さ・角の大きさ等の計算ができる	三角形の面積を、決定条件である2辺とその間の角または3辺から求めることができる。 空間図形への応用において、適当な三角形に着目して考察することができる。 三角比の表から $\sin\theta, \cos\theta, \tan\theta$ の値を読み取ることができる。 三角比と三角形の面積の関係を考察することができる。	これまでに学習している数や図形の性質に関する拡張と対比し、三角比を鋭角から鈍角まで拡張して考察しようとする。 正弦定理・余弦定理の図形的意味を考察する。 これまでに学習している数や図形の性質に関する拡張と対比し、三角比を鋭角から鈍角まで拡張して考察しようとする。 三角比が与えられたときの θ を求める際に、図を積極的に利用しようとする。
12	データの分析	データの整理 データの代表値 データの散らばりと四分位数 分散と標準偏差 データの相関	平均値や最頻値、中央値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。 箱ひげ図をかき、データの分布を比較することができる。 分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。	変数の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するかを考察することができる。それらの性質を活用して平均値や分散を見通しよく計算することができる。 散布図を作成し、2つの変量の間の相関を考察することができる。 散らばりの度合いを示す量の意味と計算方法を習得する。	データを整理して全体の傾向を考察しようとする。 データの相関について、散布図や相関係数を利用してデータの相関を的確にとらえて説明することができる。 相関関係と因果関係の違いについて考察しようとする。 相関の強弱を数値化する方法を考察しようとする。

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
数学 I		1年 工業科 商業科	3	数学 I Standard (東京書籍)	Standard Buddy WRITE 数学 I (東京書籍)
科目の概要と目標		数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			
月	単元	学習内容	評価方法		
			知識技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 5 6	数と式	多項式の加法と減法 多項式の乗法 因数分解 実数 根号を含む式の計算 不等式の性質 1次不等式 絶対値を含む 方程式・不等式	たすきがけによる因数分解およびやや複雑な因数分解ができる。 不等式の性質を理解し1次不等式が解ける。 絶対値のついた方程式・不等式が解ける。 整式に関する用語を確認し、加法・減法・乗法の計算ができる。 有理数・無理数・分母の有理化等の用語が定着し、計算ができる。 数の大小を不等号であらわすことができる。	式を1つの文字におき換えることによって、式の計算を簡略化することができる。 式の形の特徴に着目して変形し、因数分解の公式が用できるようなことができる。 複雑な式についても、項を組み合わせる、降べきの順に整理するなどして見通しをよくすることで、因数分解をすることができる。	多項式の乗法には、数の場合と同様に分配法則が使えることに興味をもち、考察しようとする。 ・不等式の性質について、等式における性質と比較して、考察しようとする。 展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。 式の変形、整理などの工夫において、よりよい方法を考察しようとする。
7	集合と命題	集合 命題と条件 命題とその逆・対偶・裏 命題と証明	命題の真偽、反例の意味を理解し、集合の包含関係や反例を調べることで、命題の真偽を決定することができる。 必要条件、十分条件、必要十分条件、同値の定義を理解している。 空集合、共通部分、和集合、補集合について理解している。 命題の逆・対偶・裏の定義と意味を理解し、それらの真偽を調べることができる。	条件を満たすものを集合の要素としてとらえることができる。 ・命題の条件や結論に着目し、命題に応じて対偶の利用や背理法の利用を適切に判断することで、命題を証明することができる。 条件を満たすものを集合の要素としてとらえることができる。 ・題が偽であることを示すには、反例を1つあげればよいことが理解できている。	直接証明法では難しい命題も、対偶を用いた証明法や背理法を用いると鮮やかに証明できることに興味・関心をもち、実際に証明しようとする。 命題とその対偶の真偽の関係について考察しようとする。
9 10	2次関数	関数とグラフ 2次関数のグラフ 2次関数の最大・最小 2次関数の決定 2次方程式 2次関数のグラフとx軸の位置関係 2次不等式	2次関数を $y=a(x-p)^2+q$ の形に式変形して、最大値、最小値を求めることができる。 2次方程式の解き方として、因数分解、解の公式を理解している。 2次不等式を解くことができる。 $f(x)$ や $f(a)$ の表記を理解し、用いることができる。 2次関数のグラフとx軸の共有点の個数を求めることができる。	2次関数の値の変化をグラフから考察することができる。 2次関数の決定において、条件を処理するのに適した式の形を判断することができる。 2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を $D=b^2-4ac$ の符号から考察することができる。 2次関数の特徴について、表、式、グラフを相互に関連付けて多面的に考察することができる。 2次関数 $y=ax^2+bx+c$ のグラフを、 $y=ax^2$ のグラフをもとに考察することができる。	放物線の平行移動や対称移動の一般公式を考察しようとする。 放物線のもつ性質に興味・関心を示し、自ら調べようとする。 一般の2次関数 $y=ax^2+bx+c$ について、頂点、軸の式を考察しようとする。 2次不等式を解くときに、図を積極的に利用する。
11 12	三角比	三角比 三角比の相互関係 三角比の拡張 正弦定理 余弦定理 正弦定理と余弦定理の応用 三角形の面積 空間図形への応用	直角三角形において、正弦、余弦、正接が求められる。 $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ において、三角比の値から θ を求めることができる。 また、1つの三角比の値からの残りの値を求めることができる。 正弦定理・余弦定理を利用して三角形の辺や角を求めることができる 三角比を利用して、平面図形や空間図形における線分の長さ・角の大きさ等の計算ができる	三角形の面積を、決定条件である2辺とその間の角または3辺から求めることができる。 空間図形への応用において、適当な三角形に着目して考察することができる。 三角比の表から $\sin\theta, \cos\theta, \tan\theta$ の値を読み取ることができる。 三角比と三角形の面積の関係を考察することができる。	これまでに学習している数や図形の性質に関する拡張と対比し、三角比を鋭角から鈍角まで拡張して考察しようとする。 正弦定理・余弦定理の図形的意味を考察する。 これまでに学習している数や図形の性質に関する拡張と対比し、三角比を鋭角から鈍角まで拡張して考察しようとする。 三角比が与えられたときの θ を求める際に、図を積極的に利用しようとする。
1 2 3	データの分析	データの整理 データの代表値 データの散らばりと四分位数 分散と標準偏差 データの相関	平均値や最頻値、中央値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。 箱ひげ図をかき、データの分布を比較することができる。 分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。	変数の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するかを考察することができる。それらの性質を活用して平均値や分散を見通しよく計算することができる。 散布図を作成し、2つの変数の間の相関を考察することができる。 散らばりの度合いを示す量の意味と計算方法を習得する。	データを整理して全体の傾向を考察しようとする。 データの相関について、散布図や相関係数を利用してデータの相関を的確にとらえて説明することができる。 相関関係と因果関係の違いについて考察しようとする。 相関の強弱を数値化する方法を考察しようとする。

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
理科・化学基礎		普通科・1年	2	化学基礎（数研出版）	<ul style="list-style-type: none"> 改訂版リードLightノート化学基礎（数研出版） 新訂版リピートノート化学①（浜島書店） 新訂版リピートノート化学②（浜島書店）
科目の概要と目標		物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。			
月	単元	学習内容	評価方法		
			知識技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	化学と人間生活	生活の中での、さまざまな物質の利用について再発見をし、人間生活における役割について理解を深める。実験や観察を通して、探究の活動について理解を深める。	自然界のしくみには、基本的な概念・原理・法則があることを理解できる。基本的な実験を通し、観察法や実験の意味を考えることができる。	化学の成果が人間生活の向上に果たした役割を、具体例を踏まえて考察できる。	化学と人間生活における役割について関心を示し、理解しようとする。
5	物質の探究 物質の構成粒子	物質が原子、イオン、分子から構成されていることを理解する。構成粒子の違いと物質の種類の違いを理解する。	物質の構成粒子や量的関係に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。熱運動と物質の三態との関係から、代表的な物質について、常温、常圧での状態を理解し、知識として身につけている。実験において、質量や体積などの定量的な測定方法の技能が習得できているとともに、実験の測定結果から量的関係を的確に表現できる。	原子は原子核と電子からなっていて、電子の状態が物質の性質に大きく寄与していることを推論できる。物質の状態変化は、構成粒子の分子運動に関係し、それが温度や圧力によるものであることを論理的、総合的に判断できる。周期表から大まかな性質が判断できる。物質の状態に関して観察、実験を行い、それらに関する技能を習得し、それらの測定結果から物質の状態について考察できる。	物質に関心をもち、物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子からなっていることを探究しようとしている。物質の状態変化の現象について、粒子の運動と関連付けて探究しようとする。
6 7	イオン結合 共有結合と分子間力 金属結合 化学結合と物質	イオンの生成を電子配置と関連付けて理解し、イオン結合およびイオン結合からなる物質の性質を理解する。共有結合を電子配置と関連づけて理解し、分子からなる物質の性質を理解する。さらに、分子間に働く力により物質ができていていることを理解する。金属原子間の結合及び金属からなる物質の性質を理解する。物質の結晶を結合の違いによって区別し、性質を整理する。具体的な物質について、それぞれ性質や利用例を理解する。	物質の構成粒子の違いによる結合・結晶の差異を代表的な物質から具体的に理解し、知識を身につけている。物質は結合の違いによって性質の違いがあり、区別できることを理解している。化学結合に関する観察、実験の操作や記録などの技能が習得でき、その結果より結論を表現できる。それぞれ物質の、結合による性質の違いを利用し、物質を見わける操作方法を選択できる。	物質の性質は、イオン結合、共有結合、金属結合などの結合の違いによって異なることを、代表的な物質の性質の比較から推論できる。それぞれの物質について、結合によって区別することができる。それぞれの物質の性質の性質を結合と関連付けて考えることができる。	物質の構造は、イオン結合、共有結合、金属結合などの結合の仕方の違いに関わりがあることを意欲的に探究しようとする。それぞれの結合とその結晶について、正確に区別し探究しようとする。身近な物質について、結合によって区別し、性質や利用例を日常の事象と関連付けて探究しようとする。
9 10	物質と化学反応式	原子量・分子量・式量などの物質の基本事項を学ぶ。物質と溶液の濃度の関係を学ぶ。化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。科学の進歩の歴史と基本的な法則の発見の経緯について理解する。	化学式を使用できるとともに、原子量、分子量、式量と物質の知識を身につけている。	原子量・分子量・式量と物質の定義を理解し、物質を用いた基本的な計算ができ、化学変化には一定の量的関係があることを考察できる。また、物質と溶液の濃度の関係を考察できる。考察して導き出した考えを的確に表現できる。表や図のデータなどから物質の性質を分析できる能力を身につけている。	代表的な物質の化学変化に注目し、化学変化の量的関係を物質と関連づけて考察しようとするとともに、意欲的にそれらを探究しようとする。
11 12	酸と塩基	水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度との関係およびpHについて理解する。酸と塩基の性質と中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。中和滴定と滴定曲線により、中和反応を理解する。	酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて酸・塩基反応をとらえることができ、さらに中和反応の量的関係を理解している。実験器具の取り扱いができると同時に、実験結果から濃度未知の酸や塩基の濃度を求める技能を修得している。	酸・塩基の強弱とpHの観察、実験などを通し、科学的に考察できる。また、酸・塩基の中和反応についても考察できる。考察して導き出した考えを的確に表現できる。	酸・塩基や中和反応に関心をもち、それらを日常生活に関連づけて意欲的に探究しようとする。身近な物質のpHを測定して考察するなど、身近な現象と酸・塩基反応を関連づけて意欲的に探究しようとする。
1 2	酸化還元反応	酸化・還元反応の定義を理解し、酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。酸化剤と還元剤の反応と酸化還元反応の起こりやすさを理解する。酸化還元反応と日常生活や社会生活とのかかわりについて理解する。	電子の授受や参加数の変化から酸化還元反応を理解し、知識を身につけている。酸化還元反応の定義を理解し、日常生活と関連づけて酸化還元反応をとらえることができる。代表的な酸化剤や還元剤の観察、実験の報告書を作成する中で、電子の授受としての規則性を見だし、自らの考えで表現することができる。金属のイオン化傾向とそれらによる反応性の違いを理解し、実用電池や電気分解、金属の製錬など身近に酸化還元反応が利用されていることを知っている。	さまざまな観察、実験を通し、酸化・還元反応の定義と酸化数の定義の有効性を理解し、共通性を見だし、酸化還元反応として論理的に考察できる。酸化還元反応の例として、電池の実験を行い、その説明を科学的に表現できる。実用電池や金属の製錬と酸化還元反応との関連性を見だし、論理的に考察し、科学的に判断できる。	燃焼、金属の溶解、実用電池の利用に興味をもち、それらの共通性を意欲的に探究する。身近な現象や金属の製錬と酸化還元反応を関連付けて意欲的に探究しようとする。
3	化学が拓く世界	生活を支える科学技術について再発見をし、化学技術の粋割について理解を深める。化学に関わる科学技術について学び、化学を学ぶことに意欲をもち。	日常生活や社会において、様々な科学技術に支えられていることを理解している。安全な水道水を得るための科学技術、食品を保存するための科学技術、ものを洗浄するための科学技術等、化学が生活を豊かにするための課題を克服してきたことを知っている。	さまざまな観察・実験を通して、いかに日常生活や社会において科学技術が密接な関係にあるのかを理解し、関連づけて論理的に考察できる。日常生活や社会から切り離せない安全な水道水の確保、食品の保存、ものを洗浄することなど、科学技術を通して、化学基礎で学んだことがどのようにいかされているかを考察し、科学的に判断できる。食品中に含まれているビタミンCが、どのくらい含まれているかを酸化還元滴定の観察、実験の報告書を作成する中で、還元剤が食品にかわり酸化されることにより、食品が参加されることを防いでいることを、自ら考察して表現できる。	身近にある飲料水、食品、ものを洗浄する力など日常生活で不可欠なものに対して興味をもち、それらが化学基礎のどの分野と関連が深いかを意欲的に探究する。

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
理科・地学基礎		普通科・1年	2	高等学校地学基礎(第一学習社)	ネオパルノート地学基礎(第一学習社)
科目の概要と目標		日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、自ら課題を設定し、見通しをもって観察、実験などを行うことができる、科学的に探究する資質・能力を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的に探究しようとする態度を養う。			
月	単元	学習内容	評価方法		
			知識技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	地球のすがた	地球の概観 プレートの運動	計算によって地球の大きさを求めることができる。緯度1°あたりの経線の長さの測量について理解し、知識を身に付けている。地球内部の区分の違い、プレートについて理解し、知識を身に付けている。造山帯の形成、大陸地殻の形成・成長の過程を理解し、知識を身に付けている。	グラフを判読し、地球内部の構成物質の違いについて考察することができる。大地形について、プレートの運動との関連を考察することができる。プレートテクトニクスという概念を理解し、地殻の変動について、プレートの運動によって説明することができる。	地球内部の層構造や各層を構成する物質の違いに関心をもち、地球内部のなりたちを意欲的に探究しようとしている。大地形の形成とプレートテクトニクスについて関心をもち、地殻変動とプレートの運動との関係について意欲的に学習しようとしている。
5	地球の活動	地震	断層の種類や褶曲について、形成される条件などの特徴を理解し、知識を身に付けている。断層の種類や褶曲について特徴を理解し、知識を身に付けている。地震波や大森公式について理解し、知識を身に付けている。日本付近の地震の分布と種類を理解し、知識を身に付けている。	変成作用と変成岩について関心をもち、プレートの運動と関連させて、意欲的に学習しようとしている。世界の地震分布に関する資料を判読し、地震の分布の特徴を、地下のプレートと関連させて見いだすことができる。大森公式を利用して、初期微動継続時間から震源距離を求めることができる。	断層の形式と褶曲について関心をもち、地殻の変動のようすを解明する方法を意欲的に習得しようとしている。地震の発生と分布の特徴に関心をもち、地震のおこるしくみについてプレートの運動と関連させて、意欲的に探究しようとしている。
		火山活動	火山の形成過程について、地下のプレートと関連させて理解し、知識を身に付けている。噴火のしくみ、火山噴出物の種類、噴火の様式とマグマの性質の関係について理解し、知識を身に付けている。火山の形の特徴とマグマの性質との関係を理解し、知識を身に付けている。火成岩のおもな造岩鉱物、火成岩の分類、偏光顕微鏡による造岩鉱物の特徴を理解し、知識を身に付けている。	資料から、マグマの発生する場所について、地下のプレートと関連させて考察することができる。マグマの性質と噴火の様式や火山の形を示す表から、実際の火山について、その形とマグマの性質の関連を考察することができる。火成岩の組織と、岩石中に含まれる造岩鉱物の量をもとにして、岩石名を判断することができる。	火山の形成に関心をもち、火山活動について意欲的に学習しようとしている。火山噴出物と火山の噴火に関心をもち、火山活動について意欲的に学習しようとしている。火山の形に関心をもち、火山活動について意欲的に探究しようとしている。火成岩のおもな造岩鉱物の特徴、火成岩の分類に関心をもち、火成岩のなりたちを意欲的に学習しようとしている。
9 10	大気と海洋	地球のエネルギー収支 大気と海水の運動	大気の組成と圧力、大気圏の構造について理解し、知識を身に付けている。大気中の水の変化と、大気に含まれる水蒸気量と温度の関係を理解し、知識を身に付けている。太陽放射、太陽定数、地球放射を理解し、知識を身に付けている。大気のエネルギー収支、温室効果、放射冷却を理解し、知識を身に付けている。緯度ごとのエネルギー収支、地球における南北の熱の輸送を理解し、知識を身に付けている。風が吹くしくみ、海陸風や季節風の違いを理解し、知識を身に付けている。エルニーニョ現象やラニーニャ現象について理解し、知識を身に付けている。	高度別の気温のデータから、グラフを作成し、大気圏が高度による気温の変化にもとづいて区分されていることを確認することができる。飽和水蒸気圧と温度との関係を示すグラフから、相対湿度を計算によって求めることができる。大気のエネルギー収支の図において、地球のエネルギー収支の平衡を数値で確認することができる。エルニーニョ現象やラニーニャ現象が発生したときに、日本の気候に与える影響について考察することができる。	大気の組成、大気の圧力、大気圏の構造、オゾン層に関心をもち、各種の気象情報を積極的に日常生活に利用しようとしている。大気中の水の変化、雲の発生、降水のしくみについて関心をもち、天気の変り変わりのしくみを意欲的に学習しようとしている。太陽放射と地球放射に関心をもち、太陽エネルギーの働きについて意欲的に学習しようとしている。風が吹くしくみに関心をもち、海陸風や季節風について意欲的に学習しようとしている。
11 12	宇宙と地球	宇宙と太陽の誕生 太陽系と地球の誕生	宇宙の始まり、銀河系の構造について理解し、知識を身に付けている。太陽の誕生過程やエネルギー源について理解し、知識を身に付けている。太陽の表面や外層における活動について理解し、知識を身に付けている。太陽系の構造と誕生過程、地球型惑星と木星型惑星の違いを理解し、知識を身に付けている。太陽系の小惑星の特徴を理解し、知識を身に付けている。地球型惑星と木星型惑星の特徴を理解し、知識を身に付けている。生命が誕生する条件、原始地球の誕生過程や原始地球の進化から地球に生命が存在する理由について理解し、知識を身に付けている。	宇宙の探究の歴史に関心をもち、宇宙の構造やその誕生過程について意欲的に探究しようとしている。星団の観察を通して、星団の位置を確認し、恒星や銀河について理解を深めることができる。太陽の黒点の観察を通して、太陽の活動について理解を深めることができる。太陽系の形成時の位置や質量などの違いによって、地球型惑星と木星型惑星の内部構造が違うことを考察できる。木星の衛星の観察を通して、衛星が木星の周りを公転していることを確認できる。それぞれの惑星の環境の違いから、その違いの要因について考察することができる。	宇宙の始まりについて意欲的に探究しようとしている。地球上にさまざまな影響を与える太陽の活動を意欲的に学習しようとしている。地球に生命が存在する理由に関心をもち、原始地球の誕生過程や進化について意欲的に学習しようとしている。
1 2	生物の変遷と地球環境	地層と化石 地球と生物の変遷	層の形成について理解し、知識を身に付けている。整合と不整合、地層の対比、堆積構造について理解し、知識を身に付けている。堆積岩の形成、堆積岩の種類を理解し、知識を身に付けている。さまざまな化石のでき方、示相化石と示準化石、相対年代と数値年代の違いについて理解し、知識を身に付けている。地質時代の区分について理解し、知識を身に付けている。先カンブリア時代から新生代第四紀までの、地球と生物の変遷を理解し、知識を身に付けている。	層の重なりや堆積構造などから堆積環境を調べる方法を意欲的に習得しようとしている。グラフから、当時の環境や、生物の進化・絶滅について考察することができる。	堆積岩の形成に関心をもち、堆積環境を調べる方法を意欲的に習得しようとしている。さまざまな化石のでき方、示相化石と示準化石について関心をもち、地質時代のできごとを解明する方法を意欲的に習得しようとしている。
3	地球の環境	地球環境の科学 日本の自然環境	気候変動や地球温暖化の原因、地域による影響の違いを理解し、知識を身に付けている。地震や津波による被害から、その対策について理解し、知識を身に付けている。	地球温暖化に関する資料を判読し、地球温暖化の原因や、影響を考察することができる。ハザードマップを判読することができる。	地球の気候変動と環境への影響や人間活動との関わりに関心をもち、意欲的に学習しようとしている。気団に関心をもち、四季の天気の変り変わりを意欲的に学習しようとしている。

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
理科・科学と人間生活		工業科商業科・1学年	2	科学と人間生活(東京書籍)	新課程 ニューサポート 科学と人間生活(東京書籍)
科目の概要と目標		自然と人間生活との関わり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。			
月	単元	学習内容	到達度目標		
			知識・技能	思考・判断・表現	主観的に学習に取り組む態度
4 5	科学技術の発展	科学技術の歴史と発展について理解する。 エネルギーや情報技術の発展について理解する。 持続可能な未来のエネルギーについて理解する。	・科学技術の発展が人間生活を豊かで便利にしてきたことや現代の人間生活に科学技術が不可欠であることを理解できる。	・科学技術が人間生活に果たす役割について考察し、表現できる。	・科学技術と人間生活の関わりに関心をもち、その役割や課題について考えることができる。
6 7	さまざまな微生物 私たちの暮らしへの微生物の利用	さまざまな微生物が身の回りに存在していることについての理解を深める。 微生物の発見とその私たちの暮らしへの利用について理解する。	・身の回りにはさまざまな微生物が存在しており、人間生活と密接な関わりがあることを理解できる。 ・生態系の中での炭素や窒素の循環における微生物の分解者としての役割について理解することができる。	・土壌微生物のはたらきについて、さまざまな条件の下での微生物のはたらきについてその根拠を踏まえて表現できる。 ・水中微生物の人間生活との関わりについて調べ、微生物を利用することのメリットやデメリットなどを多角的に考えることができる。	・微生物はいろいろな場所に存在するはずであると言うことを前提にした考え方ができる。 ・授業を通じて知り得たことを参考にして、微生物について考えることができる。
9 10	リサイクルと何か 金属の性質とその再利用 プラスチックの性質とその再利用	リサイクルと何かについての理解を深める。 金属の性質を知り、その再利用についての理解を深める。 プラスチックの性質について知り、その再利用についての理解を深める。	・身の回りにはさまざまなものの中のリサイクルすることができるものについて理解できる。 ・金属の種類による物理的な性質や化学的な性質の違いについて理解できる。 ・プラスチックの種類とそれらの性質や特性について理解できる。	・授業で話し合った内容を元に、ガラスや金属、プラスチックなどについて、その種類に応じた分別やリサイクル方法について考えることができる。	・授業で話し合った内容を元に、材料削減、再利用、再生利用について、循環型社会の実現には何が必要かを考えて実施できる。
11 12	光の進み方とその基本的な性質 目に見える光と色の見え方 目に見えない光とその利用	光の進み方とその波としての性質について理解する。 光の3原色と色についての理解を深める。 電磁波に利用について理解する。	・物質の境界面での光の進み方に関して、反射や屈折、全反射について理解できる。 ・光の分散や波長とスペクトルとの関係、偏光などの光の性質について理解できる。 紫外線や赤外線、電波やX線・γ線など、電磁波の種類と性質について理解できる。	・授業で話し合った内容を元に普段の生活経験の中にある現象を想起し、考えて表現できる。	・具体的な教材を使っていろいろなものを見て、その現象と光の性質を見いだそうとすることができる。
1 2	太陽と月がもたらすリズム 太陽が動かす大気と水	太陽と月の運行について理解を深める。海水面の変動と潮の満ち引きについての理解を深める。 太陽の放射エネルギーについての理解を深める。 太陽がつくる大気と海洋の循環について理解する。	・日、月、年という時間単位の定義や意味について、月や地球の運動と関連付けながら理解している。 ・潮位の変化のデータを正しくグラフに整理している。 ・潮の満ち引きと月の引力の関係や太陽、地球、月の位置関係による潮位の変動の周期性、高潮による被害について理解できる。	・潮位の変化のデータを元に考察し、潮位の変化の周期性について表現することができる。	・授業で話し合った内容を元に、日、月、年が作られることについて表現することができる。 ・潮位の変化のグラフを分析し、その結果を基に話し合うことができる。
3	1年を通じた大気の運動と気象災害	1年を通じた大気の運動について理解を深め、気象災害について理解する。	・自然災害と自然現象の違いについて知り、防災・減災といった被害軽減の方法について理解できる。	・自然災害による被害と災害後の暮らしの困難さについて理解し、その被害軽減のための取り組みについて考えることができる。	・災害に対する備えとしてどのようなことが必要か、また被害軽減のためにできることはどんなことがあるかを考え、実践していくことができる。

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
理科・物理基礎		普通科・2年	3	高等学校 物理基礎 (啓林館)	ステップアップノート 物理基礎 新訂版 (啓林館)
科目の概要と目標 <ul style="list-style-type: none"> ・物体の運動と力、および、それらの関係を理論的に理解する。 ・「仕事」の定義から、「エネルギー」への繋がりを学び、エネルギーというものを物理的に理解する。 ・「波」という物理現象の基本的性質「反射」「屈折」「回折」「干渉」について学び、実際の現象と結び付けながら理解を深める。特に、「音」や「光」に関する現象については、詳しく学ぶ。 ・電流と磁場に関する基本的な物理現象を学び、電流と磁場の関係を理解する。 					
月	単 元	学 習 内 容	評 価 方 法		
			知識 技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	物体の運動とエネルギー	1.速度 2.加速度 3.落体の運動	<ul style="list-style-type: none"> ・物体の運動に関する概念を正しく理解するとともに、公式を目的に応じて適切に用いることができる。 ・身近な物理現象について、物理量の測定と表し方、分析の手法を理解できる。 ・物体の運動の表し方について、直線運動を中心に理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな物体の運動についてグラフを用いて表現することができる。 ・考察して導き出した考えを的確に表現できる。 ・速度が変化する物体の直線運動に関する速度と時間との関係を見いだすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを通して、物体の運動とエネルギーに関する学習を主体的に取り組むことができる。 ・自らの学習を振り返り調整して、粘り強く学習に取り組む態度が見られる。
5	力と運動 仕事とエネルギー	1.力 2.運動の法則 3.様々な力と運動 1.仕事	<ul style="list-style-type: none"> ・力と運動に関する概念を正しく理解するとともに、公式を目的に応じて適切に用いることができる。 ・物体に様々な力が働くことを理解することができる。 ・物体に働く力のつり合いを理解することができる。 ・運動の三法則を理解することができる。 ・物体が落下する際の運動の特徴及び物体に働く力と運動との関係について理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算より求めた値がどのような運動になるかを表現することができる。 ・物体に一定の力を加え続けたときの運動に関する実験などを行い、物体の質量、物体に働く力、物体に生じる加速度の関係を見いだすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを通して、力と運動に関する学習を主体的に取り組むことができる。 ・自らの学習を振り返り調整して、粘り強く学習に取り組む態度が見られる。
6 7	仕事とエネルギー 熱 熱とエネルギー	2.運動エネルギー 3.位置エネルギー 4.力学的エネルギー 1.熱と温度 2.熱量 3.熱と仕事の変換	<ul style="list-style-type: none"> ・「仕事」という物理的概念を学び、エネルギーの考え方へと繋げ、力学的エネルギーについて総合的に理解できる。 ・運動エネルギーと位置エネルギーについて、仕事と関連付けて理解することができる。 ・熱とエネルギーについて、変換と保存等、エネルギーは等価であること等、総合的に理解できる。 ・熱と温度について、原子や分子の熱運動の観点から理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連付けて表現することができる。 ・力学的エネルギーに関する実験などを行い、力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連付けて表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを通して、仕事とエネルギーに関する学習を主体的に取り組むことができる。 ・グループワークを通して、熱とエネルギーに関する学習を主体的に取り組むことができる。 ・自らの学習を振り返り調整して、粘り強く学習に取り組む態度が見られる。
9 10	波 波の性質 音	1.波の伝わり方 2.波の性質 1.音波の性質 2.音源の振動	<ul style="list-style-type: none"> ・「波」という物理現象はどんなものかということを中心として捉えさせ、波の基本的性質について理解できる。 ・波の性質について、直線状に伝わる場合を中心に理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算より求めた値がどのような現象になるかを表現することができる。 ・波の性質を用いた製品が日常生活や社会でどのような役割を担っているかを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを通して、波の性質に関する学習を主体的に取り組むことができる。 ・グループワークを通して、音に関する学習を主体的に取り組むことができる。 ・自らの学習を振り返り調整して、粘り強く学習に取り組む態度が見られる。
11 12	電気と磁気 物理と私たちの生活	1.静電気と電流 2.交流と電磁波 ・エネルギーとその利用 ・物理学が拓く世界	<ul style="list-style-type: none"> ・「静電気」は電子の移動によって生じるということが理解できる。 ・電場の変化が電子を動かす「電磁誘導」について理解できる。 ・物質によって抵抗率が異なることを理解することができる。 ・発電、送電及び電気の利用について、基本的な仕組みを理解することができる。 ・発電方法とエネルギーの変化について理解することができる。 ・人類が利用可能な水力、化石燃料、原子力、太陽光などを源とするエネルギーの特性や利用などについて、物理学的な観点から理解することができる。 ・科目で学んだ事柄が、日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・静電気、電流に関する様々な事象について表現することができる。 ・「電場と磁場」の関連性について表現できる。 ・同じ物質からなる導体でも長さや断面積によって電気抵抗が異なることを見いだすことができる。 ・発電方法とエネルギーの変化について表現することができる。 ・科目で学んだ事柄が、日常生活や社会を支えている科学技術との関係性を見出すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを通して、電気と磁気に関する学習を主体的に取り組むことができる。 ・グループワークを通して、交流と電磁波に関する学習を主体的に取り組むことができる。 ・自らの学習を振り返り調整して、粘り強く学習に取り組む態度が見られる。
1 2					
3					

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
理科・生物基礎		普通科・2年	2	高等学校生物基礎（数研出版）	新課程 リードLight ノート生物基礎（数研出版）
科目の概要と目標 1 現代生物学の基礎となる代謝、遺伝子、恒常性、免疫、生態系といった基礎的な内容を、最先端の生物学を織り交ぜながら学習する。 2 生物の多様性の中から法則を導き、その中の法則に基づきながら共通性を見いだしていく。 3 観察・実験を通して自然を科学的に探求する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。 4 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。					
月	単元	学習内容	評価方法		
			知識技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝	生物の多様性、生物の多様性・共通性とその由来、生物の共通性としての細胞 生命活動とエネルギー、代謝とエネルギー、ATP	<ul style="list-style-type: none"> 生物が共通性をもつことを理解する。 生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーはATPの形で供給されていることを理解する。 ATPが生命活動にエネルギーを供給するしくみについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな生物の比較に基づいて、すべての生物に見られる特徴について考え、共通性を見いだすことができる。 原核細胞と真核細胞の共通点と相違点を見いだすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生物の多様性と共通性に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 エネルギーと代謝に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。
5	3. 呼吸と光合成 遺伝子とのはたらき 1. 遺伝情報とDNA	呼吸、光合成、エネルギーの流れ、酵素 遺伝情報を含む物質-DNA、DNAの構造	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸・光合成の過程でATPが合成されることを理解する。 酵素の触媒作用と基質特異性について理解する。 生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解する。 DNAの構造および塩基の相補性を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 植物がエネルギーを取り入れる方法について説明できる。 動物や植物がどのようにエネルギーを獲得しているかを調べ、説明できる。 DNAの構造を示した模式図に基づいて、塩基の相補性などのDNAの構造の特徴を見いだすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸と光合成に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 遺伝情報とDNAに関心を持ち、主体的に学習に取り組める。
6 7	2. 遺伝情報の複製と分配 3. 遺伝情報の発現	遺伝情報の複製、遺伝情報の分配 遺伝情報とタンパク質、タンパク質の合成、分化した細胞の遺伝子発現、遺伝情報と遺伝子、ゲノム	<ul style="list-style-type: none"> DNAの塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。 細胞周期の進行に伴って、DNAが複製され、分配されることを理解する。 DNAの遺伝情報をもとにタンパク質が合成される、転写・翻訳の過程を理解する。 分化した細胞では、細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> DNAの正確な複製には塩基の相補性が利用されていることに気づき、説明できる。 DNAの塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を見いだすことができる。 からだを構成する細胞において、すべての遺伝子が常に発現しているわけではないことに気づき、各部位で発現する遺伝子の違いによって各細胞が異なる形やはたらきをもっていることを見いだすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝情報の複製と分配に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 遺伝情報の発現に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。
9 10	ヒトの体内環境の維持 1. 体内での情報伝達と調節 2. 体内環境の維持のしくみ	体内での情報伝達、神経系による情報の伝達と調節、内分泌系による情報の伝達と調節 体内環境の維持、血糖濃度の調節のしくみ、血液の循環を維持するしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解する。 自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解する。 血液凝固のはたらきについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事例において、からだの状態がどのように変化するかを交感神経と副交感神経のはたらきに注目して考え、説明することができる。 血糖濃度とインスリンのはたらきとの関係に気づき、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体内環境の維持のしくみに関心を持ち、主体的に学習に取り組める。
11 12	3. 免疫のはたらき	からだを守るしくみ-免疫、自然免疫、適応免疫、免疫と病気	<ul style="list-style-type: none"> 自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらき細胞の役割を理解する。 免疫記憶のしくみを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 抗原が体内に侵入したときの、抗体の産生量の変化を示したグラフから、同じ感染症に再びかかりにくくなる理由を考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 免疫のはたらきに関心を持ち、主体的に学習に取り組める。
1 2	第4章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移 2. 植生の分布とバイオーム	植生、植生の遷移 バイオームの成立、世界のバイオーム、日本のバイオーム	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな植生とその特徴を理解する。 植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解する。 世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解する。 日本に分布するバイオームについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、説明できる。 地球の気温が上昇すると、バイオームの垂直分布がどのように変化するかを推測することができる。 特定の場所の植生が、時間の経過とともにどのように変化するかを推測し、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 植生と遷移に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 植生の分布とバイオームに関心を持ち、主体的に学習に取り組める。
3	3. 生態系と生物の多様性 4. 生態系のバランスと保全	生態系の成りたち、生態系と種多様性、生物どうしのつながり 生態系のバランス、人間の活動と生態系、生態系の保全	<ul style="list-style-type: none"> 生態系がどのように構成されているのかを理解する。 生態系において種多様性が維持されるしくみを理解する。 生態系のバランスが保たれているとはどのような状態かを理解する。 生態系の保全のために、どのような活動が行われているかを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。 外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚に与えた影響を考察し、説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生態系と生物の多様性に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 生態系のバランスと保全に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
理科・生物基礎		普通科・2年	3	数研出版 高等学校 生物基礎	リード Light ノート生物基礎
科目の概要と目標		日常生活や社会と関連づけながら、生物や生物現象に対する関心を高め、目的意識をもって観察、実験を行い、生物学的に探究する能力と態度を養う。生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。			
月	単元	学習内容	評価方法		
			知識技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	生物の多様性と共通性	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生物の共通点 生物の共通性としての細胞 ミトコンドリアと葉緑体の起源 	<ul style="list-style-type: none"> 生物が「細胞からできている」、「生命活動にはエネルギーが必要」、「遺伝情報として DNA をもっている」などの共通性をもつことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな生物の比較に基づいて、すべての生物に見られる特徴について考え、共通性を見いだすことができる。 進化の過程において、真核細胞と原核細胞のどちらが先に現れたのか、理由とともに説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生物の多様性と共通性に関心をもち、主体的に学習に取り組める。
5	エネルギーと代謝 呼吸と光合成	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーと代謝 代謝に関わる酵素 生体内におけるエネルギー変換 	<ul style="list-style-type: none"> 生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーは ATP の形で供給されていることを理解する。 呼吸・光合成の過程で ATP が合成されることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「1日の消費エネルギーの算出」を行い、自分自身が1日で消費するエネルギーの量を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーと代謝に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 呼吸と光合成に関心をもち、主体的に学習に取り組める。
6 7	遺伝情報とDNA 遺伝情報の複製と分配 遺伝情報の発現	<ul style="list-style-type: none"> DNAの構造 ゲノムと遺伝情報 細胞分裂とDNAの複製 細胞周期とDNAの複製 遺伝情報の流れ 転写 翻訳 遺伝子の発現と生命現象 	<ul style="list-style-type: none"> DNAの構造および塩基の相補性を理解する。 DNAが半保存的複製という方法によって正確に複製されることを理解する。 細胞周期の進行に伴って、DNAが複製され、分配されることを理解する。 DNAの遺伝情報をもとにタンパク質が合成される、転写・翻訳の過程を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> DNAの構造を示した模式図に基づいて、塩基の相補性などのDNAの構造の特徴を見いだすことができる。 複製前後のDNAの模式図を比較し、DNAの正確な複製には塩基の相補性が利用されていることに気づき、説明できる。 コドンが塩基3個の配列で20個のアミノ酸を指定している理由について考え、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝情報とDNAに関心をもち、主体的に学習に取り組める。 遺伝情報の複製と分配に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 遺伝情報の発現に関心をもち、主体的に学習に取り組める。
9 10	体内環境の維持のしくみ 免疫のはたらき	<ul style="list-style-type: none"> 体内環境の特徴 心臓と血液循環 体内環境を調節する器官 自律神経系による調節 内分泌系による調節 自律神経とホルモンによる協同作業 免疫 自然免疫 適応免疫 免疫とヒト 	<ul style="list-style-type: none"> 体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解する。 自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解する。 自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> チロキシンの例に、フィードバックがはたらかなくなった場合、どのようなことが起こるかを考え、説明することができる。 血糖濃度とインスリン濃度の変化の1日のグラフを見て、健康な人と糖尿病患者の血糖濃度やインスリン濃度の変化の違いについて考察することができる。 抗原が体内に侵入したときの、抗体の産生量の変化を示したグラフから、同じ感染症に再びかかりにくくなる理由を考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体内での情報伝達と調節に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 体内環境の維持のしくみに関心をもち、主体的に学習に取り組める。 免疫のはたらきに関心をもち、主体的に学習に取り組める。
11 12	植生と遷移 植生の分布とバイオーム 生態系と生物の多様性 生態系のバランスと保全	<ul style="list-style-type: none"> 植生と生態系 植生の遷移 地球上の植生分布 陸上のバイオーム 生態系でのエネルギーの流れ 生態系での物質の循環 生態系のバランスと保全 生物多様性の保全 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな植生とその特徴を理解する。 植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解する。 生態系がどのように構成されているのかを理解する。 生態系において種多様性が維持されるしくみを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、説明できる。 生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 植生と遷移に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 生態系と生物の多様性に関心をもち、主体的に学習に取り組める。
1 2					
3					

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
理科・物理基礎		くすり・バイオ科・2年	3	高等学校 物理基礎 (啓林館)	ステップアップノート 物理基礎 新訂版 (啓林館)
科目の概要と目標 <ul style="list-style-type: none"> ・物体の運動と力、および、それらの関係を理論的に理解する。 ・「仕事」の定義から、「エネルギー」への繋がりを学び、エネルギーというものを物理的に理解する。 ・「波」という物理現象の基本的性質「反射」「屈折」「回折」「干渉」について学び、実際の現象と結び付けながら理解を深める。特に、「音」や「光」に関する現象については、詳しく学ぶ。 ・電流と磁場に関する基本的な物理現象を学び、電流と磁場の関係を理解する。 					
月	単 元	学 習 内 容	評 価 方 法		
			知識 技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	物体の運動とエネルギー	1.速度 2.加速度 3.落体の運動	<ul style="list-style-type: none"> ・物体の運動に関する概念を正しく理解するとともに、公式を目的に応じて適切に用いることができる。 ・身近な物理現象について、物理量の測定と表し方、分析の手法を理解できる。 ・物体の運動の表し方について、直線運動を中心に理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな物体の運動についてグラフを用いて表現することができる。 ・考察して導き出した考えを的確に表現できる。 ・速度が変化する物体の直線運動に関する速度と時間との関係を見いだすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを通して、物体の運動とエネルギーに関する学習を主体的に取り組むことができる。 ・自らの学習を振り返り調整して、粘り強く学習に取り組む態度が見られる。
5	力と運動 仕事とエネルギー	1.力 2.運動の法則 3.様々な力と運動 1.仕事	<ul style="list-style-type: none"> ・力と運動に関する概念を正しく理解するとともに、公式を目的に応じて適切に用いることができる。 ・物体に様々な力が働くことを理解することができる。 ・物体に働く力のつり合いを理解することができる。 ・運動の三法則を理解することができる。 ・物体が落下する際の運動の特徴及び物体に働く力と運動との関係について理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算より求めた値がどのような運動になるかを表現することができる。 ・物体に一定の力を加え続けたときの運動に関する実験などを行い、物体の質量、物体に働く力、物体に生じる加速度の関係を見いだすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを通して、力と運動に関する学習を主体的に取り組むことができる。 ・自らの学習を振り返り調整して、粘り強く学習に取り組む態度が見られる。
6 7	仕事とエネルギー 熱 熱とエネルギー	2.運動エネルギー 3.位置エネルギー 4.力学的エネルギー 1.熱と温度 2.熱量 3.熱と仕事の変換	<ul style="list-style-type: none"> ・「仕事」という物理的概念を学び、エネルギーの考え方へと繋げ、力学的エネルギーについて総合的に理解できる。 ・運動エネルギーと位置エネルギーについて、仕事と関連付けて理解することができる。 ・熱とエネルギーについて、変換と保存等、エネルギーは等価であること等、総合的に理解できる。 ・熱と温度について、原子や分子の熱運動の観点から理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連付けて表現することができる。 ・力学的エネルギーに関する実験などを行い、力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連付けて表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを通して、仕事とエネルギーに関する学習を主体的に取り組むことができる。 ・グループワークを通して、熱とエネルギーに関する学習を主体的に取り組むことができる。 ・自らの学習を振り返り調整して、粘り強く学習に取り組む態度が見られる。
9 10 11	波 波の性質 音	1.波の伝わり方 2.波の性質 1.音波の性質 2.音源の振動	<ul style="list-style-type: none"> ・「波」という物理現象はどんなものかということを正しく捉えさせ、波の基本的性質について理解できる。 ・波の性質について、直線状に伝わる場合を中心に理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算より求めた値がどのような現象になるかを表現することができる。 ・波の性質を用いた製品が日常生活や社会でどのような役割を担っているかを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを通して、波の性質に関する学習を主体的に取り組むことができる。 ・グループワークを通して、音に関する学習を主体的に取り組むことができる。 ・自らの学習を振り返り調整して、粘り強く学習に取り組む態度が見られる。
12	電気と磁気	1.静電気と電流 2.交流と電磁波	<ul style="list-style-type: none"> ・「静電気」は電子の移動によって生じるということが理解できる。 ・電場の変化が電子を動かす「電磁誘導」について理解できる。 ・物質によって抵抗率が異なることを理解することができる。 ・発電、送電及び電気の利用について、基本的な仕組みを理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・静電気、電流に関する様々な事象について表現することができる。 ・「電場と磁場」の関連性について表現できる。 ・同じ物質からなる導体でも長さや断面積によって電気抵抗が異なることを見いだすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを通して、電気と磁気に関する学習を主体的に取り組むことができる。 ・グループワークを通して、交流と電磁波に関する学習を主体的に取り組むことができる。
1 2 3	物理と私たちの生活	・エネルギーとその利用 ・物理学が拓く世界	<ul style="list-style-type: none"> ・発電方法とエネルギーの変化について理解することができる。 ・人類が利用可能な水力、化石燃料、原子力、太陽光などを源とするエネルギーの特性や利用などについて、物理学的な観点から理解することができる。 ・科目で学んだ事柄が、日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発電方法とエネルギーの変化について表現することができる。 ・科目で学んだ事柄が、日常生活や社会を支えている科学技術との関係性を見出すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを通して、物理と私たちの生活に関する学習を主体的に取り組むことができる。 ・自らの学習を振り返り調整して、粘り強く学習に取り組む態度が見られる。

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
理科・化学基礎		工業科・3年	3	数研出版 『化学基礎』	・改訂版 リードLightノート 化学基礎 (数研出版)
科目の概要と目標		物質と変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質と変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。			
月	単元	学習内容	評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	第1編 物質の構成と化学結合	第1章 物質の構成 1.純物質と混合物	<ul style="list-style-type: none"> 混合物を分離する操作をあげることができる。 実際にそれらの方法を適切に用いて混合物を分離することができる。 炭素、酸素、リン、硫黄の同素体をあげることができる。 代表的な成分元素について検出法を理解し、実験を実施することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 純物質と混合物の違いが何であるか説明できる。 物質を分離する操作がどのようなものであるかを説明することができる。 いろいろな物質を単体と化合物に分類することができる。 単体と化合物の違いについて説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの物質が純物質と混合物に分類されることに興味をもつ。 身のまわりの混合物がどのような純物質から構成されているかに興味をもつ。 元素の概念に興味をもつ。
		2.物質とその成分	<ul style="list-style-type: none"> 物質の状態と熱運動の関係を理解している。 物質の三態について、熱運動のようすを踏まえて説明することができる。 物理変化と化学変化の違いを理解している。 原子の構成粒子である陽子・中性子・電子の個数・電荷・質量の関係について理解している。 単原子イオンの電子配置を示すことができる。 イオン化エネルギーの概念を説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 物質を加熱したり冷却したりしたときの温度変化をグラフに表すことができる。 原子について、どのような粒子から構成されているかを説明することができる。 どのような原子が安定であるか、電子配置に基づいて説明できる。 原子の電子配置から、その原子がどのようなイオンになりやすいかを判断できる。 イオンのなりやすさについてイオン化エネルギーや電子親和力と関連できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中の物質の状態変化について興味をもつ。 原子がいくつかの粒子から構成されていることに気づく。 同じ元素でも粒子の構成が異なるものがあることに興味をもつ。 原子とイオンの違いについて疑問をもつ。
5	第2編 物質の構成粒子	1.原子とその構造	<ul style="list-style-type: none"> 元素の典型・遷移、金属・非金属、陽性・陰性などの分布および同族元素について理解している。 イオン結晶を構成するイオンの種類から、イオン結晶の名称と組成式を理解している。 イオンからなる物質の特徴を示すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 周期表の中に周期律が見いだせること、周期律は価電子の数の周期的な変化によることに気づき、価電子の数と化学的性質の関連について説明できる。 イオン結晶中のイオンの配置を示した模型およびイオン結晶の性質について説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各元素の特徴および周期表上の元素の配列について興味をもつ。 身のまわりにあるイオン結晶の性質に興味をもつ。
		2.イオン	<ul style="list-style-type: none"> 共有結合の説明ができる。 さまざまな分子を分子式や電子式、構造式で表しその構造を考えることができる。 配位結合が含まれる錯イオンを理解している。 極性を電気陰性度の違いによる電荷のかたよりと分子の形から理解している。 極性分子と無極性分子の性質の差異を実験により確認することができる。 高分子化合物の成りたちや構造を理解する。 共有結合の結晶の構造やその性質の関係を理解している。 ダイヤモンドや黒鉛中の原子の結合を、分子模型などを使って表せる。 金属も組成式で表されることを理解している。 金属の特徴を実験で示すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 原子間の共有結合を考えることによって分子の構造を予想することができる。 塩化アンモニウムの結晶にどのような結合が含まれるかを説明できる。 分子の形を予想して、極性分子と無極性分子に分類できる。 分子間力や分子結晶の性質を説明できる。 付加重合や縮重合合について説明できる。 ダイヤモンドと黒鉛の性質の違いを、共有結合の強さ、結晶構造、電子の移動をもとに説明できる。 分子結晶との違いについて説明できる。 金属特有の性質が自由電子によるものであることに気づき、金属結合および金属結晶の性質について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりにある分子からなる物質の成りたちについて興味をもつ。 通常の共有結合とはできるしくみの異なる配位結合について興味をもつ。 分子には極性分子と無極性分子があることに興味をもつ。 原子がとても長くつながった分子である高分子化合物に興味をもつ。 共有結合の結晶にはどのような物質があるかに興味をもつ。 金属特有の性質に興味をもつ。
6 7	第3編 粒子の結合	1.イオン結合とイオン結晶	<ul style="list-style-type: none"> 原子量・分子量・式量の定義を示せる。 原子の相対質量をもとに、分子や分子をつくらないものの質量を考えることができる。 実際の物質の1mol分の量を示せる。 実際の物質の量を物質量で表せる。 同温・同圧の気体の場合、1molの体積が共通であることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 異なる質量の原子が混在する場合、その平均の質量を表す方法を見いだすことができる。 ある質量の物質の中に、原子や分子などが何個含まれているかを考えることができる。 モル質量の概念を使い、粒子の数・質量と物質量に関する計算ができる。 モル体積を用いて気体の体積と物質量に関する計算ができる。 2種類の濃度の求め方を理解し、その換算ができる。 正しい化学反応式が表せる。 化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や気体の体積変化でとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ原子でも異なる質量をもつものがあることに興味をもつ。 原子1個が小さなものかわかる。 多数の粒子を数えることは困難なので、まとめて扱うことが便利だということに気づく。 物質量の概念について興味をもち、粒子の数・質量・気体の体積との関係について説明できる。 溶液の濃さの表し方について興味をもつ。 多くの化学変化は化学反応式で表されることがわかる。 化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。
		2.共有結合と分子	<ul style="list-style-type: none"> 濃度の表し方について、いろいろな方法があることを理解している。 目的の濃度の水溶液を調製できる。 化学反応における、物質量、粒子の数、質量、気体の体積などの量的な関係を、化学反応式から読み取ることができる。 化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。 原子説の発見、分子説の発見にいたる物質探究の歴史を学び、化学の基礎法則を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 酸・塩基の性質をH⁺とOH⁻で考える方法と、H⁺の授受で考える方法から、酸と塩基を見きわめられる。 pHの値から酸性、塩基性の強弱が判断できる。 水素イオン濃度と水酸化物イオン濃度の関係を用いて、水酸化物イオン濃度からpHを求めることができる。 塩の水溶液の酸性・中性・塩基性を判断し、説明することができる。 中和の量的関係を数式で表せる。 滴定曲線におけるpH変化、中和点、使用できる指示薬について理解している。 酸化還元反応に必ず電子の移動が伴うことに気づく。 酸化数を求めることによって酸化還元反応を区別することができるようになる。 酸化還元反応の化学反応式を、酸化剤・還元剤のはたらきを示す反応式からつくれる。 酸化還元反応における酸化剤と還元剤のはたらきを電子の授受に着目して説明する。 金属のイオン化は電子を放出する酸化還元反応であることに気づく。 金属固有の性質をイオン化傾向で考えることができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 酸とは何か、塩基とは何かに関心をもつ。 水もまた一部が電離しているということに興味をもつ。 中和反応がH⁺とOH⁻の反応であることに気づく。 身近な酸・塩基の水溶液も中和滴定によって濃度が求められることに気づく。 酸化と還元が同時に起こることに気づく。 酸化還元反応の複雑な化学反応式も、そのもととなる反応式と電子の授受を考慮することによって完成させることができる。 電池や金属の製錬が酸化還元反応を利用したものであることに気づく。 電池の基本的なしくみについて、イオン化傾向や電子の授受に着目して説明できる。
9 10	第2編 物質の変化	2.共有結合と分子	<ul style="list-style-type: none"> 濃度の表し方について、いろいろな方法があることを理解している。 目的の濃度の水溶液を調製できる。 化学反応における、物質量、粒子の数、質量、気体の体積などの量的な関係を、化学反応式から読み取ることができる。 化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。 原子説の発見、分子説の発見にいたる物質探究の歴史を学び、化学の基礎法則を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 異なる質量の原子が混在する場合、その平均の質量を表す方法を見いだすことができる。 ある質量の物質の中に、原子や分子などが何個含まれているかを考えることができる。 モル質量の概念を使い、粒子の数・質量と物質量に関する計算ができる。 モル体積を用いて気体の体積と物質量に関する計算ができる。 2種類の濃度の求め方を理解し、その換算ができる。 正しい化学反応式が表せる。 化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や気体の体積変化でとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ原子でも異なる質量をもつものがあることに興味をもつ。 原子1個が小さなものかわかる。 多数の粒子を数えることは困難なので、まとめて扱うことが便利だということに気づく。 物質量の概念について興味をもち、粒子の数・質量・気体の体積との関係について説明できる。 溶液の濃さの表し方について興味をもつ。 多くの化学変化は化学反応式で表されることがわかる。 化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。
		3.配位結合	<ul style="list-style-type: none"> 濃度の表し方について、いろいろな方法があることを理解している。 目的の濃度の水溶液を調製できる。 化学反応における、物質量、粒子の数、質量、気体の体積などの量的な関係を、化学反応式から読み取ることができる。 化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。 原子説の発見、分子説の発見にいたる物質探究の歴史を学び、化学の基礎法則を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 異なる質量の原子が混在する場合、その平均の質量を表す方法を見いだすことができる。 ある質量の物質の中に、原子や分子などが何個含まれているかを考えることができる。 モル質量の概念を使い、粒子の数・質量と物質量に関する計算ができる。 モル体積を用いて気体の体積と物質量に関する計算ができる。 2種類の濃度の求め方を理解し、その換算ができる。 正しい化学反応式が表せる。 化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や気体の体積変化でとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ原子でも異なる質量をもつものがあることに興味をもつ。 原子1個が小さなものかわかる。 多数の粒子を数えることは困難なので、まとめて扱うことが便利だということに気づく。 物質量の概念について興味をもち、粒子の数・質量・気体の体積との関係について説明できる。 溶液の濃さの表し方について興味をもつ。 多くの化学変化は化学反応式で表されることがわかる。 化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。
11 12	第2編 物質の変化	3.溶液の濃度	<ul style="list-style-type: none"> 濃度の表し方について、いろいろな方法があることを理解している。 目的の濃度の水溶液を調製できる。 化学反応における、物質量、粒子の数、質量、気体の体積などの量的な関係を、化学反応式から読み取ることができる。 化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。 原子説の発見、分子説の発見にいたる物質探究の歴史を学び、化学の基礎法則を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 異なる質量の原子が混在する場合、その平均の質量を表す方法を見いだすことができる。 ある質量の物質の中に、原子や分子などが何個含まれているかを考えることができる。 モル質量の概念を使い、粒子の数・質量と物質量に関する計算ができる。 モル体積を用いて気体の体積と物質量に関する計算ができる。 2種類の濃度の求め方を理解し、その換算ができる。 正しい化学反応式が表せる。 化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や気体の体積変化でとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ原子でも異なる質量をもつものがあることに興味をもつ。 原子1個が小さなものかわかる。 多数の粒子を数えることは困難なので、まとめて扱うことが便利だということに気づく。 物質量の概念について興味をもち、粒子の数・質量・気体の体積との関係について説明できる。 溶液の濃さの表し方について興味をもつ。 多くの化学変化は化学反応式で表されることがわかる。 化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。
		4.化学反応式と物質量	<ul style="list-style-type: none"> 濃度の表し方について、いろいろな方法があることを理解している。 目的の濃度の水溶液を調製できる。 化学反応における、物質量、粒子の数、質量、気体の体積などの量的な関係を、化学反応式から読み取ることができる。 化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。 原子説の発見、分子説の発見にいたる物質探究の歴史を学び、化学の基礎法則を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 異なる質量の原子が混在する場合、その平均の質量を表す方法を見いだすことができる。 ある質量の物質の中に、原子や分子などが何個含まれているかを考えることができる。 モル質量の概念を使い、粒子の数・質量と物質量に関する計算ができる。 モル体積を用いて気体の体積と物質量に関する計算ができる。 2種類の濃度の求め方を理解し、その換算ができる。 正しい化学反応式が表せる。 化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や気体の体積変化でとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ原子でも異なる質量をもつものがあることに興味をもつ。 原子1個が小さなものかわかる。 多数の粒子を数えることは困難なので、まとめて扱うことが便利だということに気づく。 物質量の概念について興味をもち、粒子の数・質量・気体の体積との関係について説明できる。 溶液の濃さの表し方について興味をもつ。 多くの化学変化は化学反応式で表されることがわかる。 化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。
1 2	第2編 物質の変化	第2章 酸と塩基の反応	<ul style="list-style-type: none"> 濃度の表し方について、いろいろな方法があることを理解している。 目的の濃度の水溶液を調製できる。 化学反応における、物質量、粒子の数、質量、気体の体積などの量的な関係を、化学反応式から読み取ることができる。 化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。 原子説の発見、分子説の発見にいたる物質探究の歴史を学び、化学の基礎法則を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 異なる質量の原子が混在する場合、その平均の質量を表す方法を見いだすことができる。 ある質量の物質の中に、原子や分子などが何個含まれているかを考えることができる。 モル質量の概念を使い、粒子の数・質量と物質量に関する計算ができる。 モル体積を用いて気体の体積と物質量に関する計算ができる。 2種類の濃度の求め方を理解し、その換算ができる。 正しい化学反応式が表せる。 化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や気体の体積変化でとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ原子でも異なる質量をもつものがあることに興味をもつ。 原子1個が小さなものかわかる。 多数の粒子を数えることは困難なので、まとめて扱うことが便利だということに気づく。 物質量の概念について興味をもち、粒子の数・質量・気体の体積との関係について説明できる。 溶液の濃さの表し方について興味をもつ。 多くの化学変化は化学反応式で表されることがわかる。 化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。
		1.酸・塩基	<ul style="list-style-type: none"> 濃度の表し方について、いろいろな方法があることを理解している。 目的の濃度の水溶液を調製できる。 化学反応における、物質量、粒子の数、質量、気体の体積などの量的な関係を、化学反応式から読み取ることができる。 化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。 原子説の発見、分子説の発見にいたる物質探究の歴史を学び、化学の基礎法則を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 異なる質量の原子が混在する場合、その平均の質量を表す方法を見いだすことができる。 ある質量の物質の中に、原子や分子などが何個含まれているかを考えることができる。 モル質量の概念を使い、粒子の数・質量と物質量に関する計算ができる。 モル体積を用いて気体の体積と物質量に関する計算ができる。 2種類の濃度の求め方を理解し、その換算ができる。 正しい化学反応式が表せる。 化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や気体の体積変化でとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ原子でも異なる質量をもつものがあることに興味をもつ。 原子1個が小さなものかわかる。 多数の粒子を数えることは困難なので、まとめて扱うことが便利だということに気づく。 物質量の概念について興味をもち、粒子の数・質量・気体の体積との関係について説明できる。 溶液の濃さの表し方について興味をもつ。 多くの化学変化は化学反応式で表されることがわかる。 化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。
1 2	第2編 物質の変化	2.水素イオン濃度とpH	<ul style="list-style-type: none"> 濃度の表し方について、いろいろな方法があることを理解している。 目的の濃度の水溶液を調製できる。 化学反応における、物質量、粒子の数、質量、気体の体積などの量的な関係を、化学反応式から読み取ることができる。 化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。 原子説の発見、分子説の発見にいたる物質探究の歴史を学び、化学の基礎法則を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 異なる質量の原子が混在する場合、その平均の質量を表す方法を見いだすことができる。 ある質量の物質の中に、原子や分子などが何個含まれているかを考えることができる。 モル質量の概念を使い、粒子の数・質量と物質量に関する計算ができる。 モル体積を用いて気体の体積と物質量に関する計算ができる。 2種類の濃度の求め方を理解し、その換算ができる。 正しい化学反応式が表せる。 化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や気体の体積変化でとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ原子でも異なる質量をもつものがあることに興味をもつ。 原子1個が小さなものかわかる。 多数の粒子を数えることは困難なので、まとめて扱うことが便利だということに気づく。 物質量の概念について興味をもち、粒子の数・質量・気体の体積との関係について説明できる。 溶液の濃さの表し方について興味をもつ。 多くの化学変化は化学反応式で表されることがわかる。 化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。
		3.中和反応と塩	<ul style="list-style-type: none"> 濃度の表し方について、いろいろな方法があることを理解している。 目的の濃度の水溶液を調製できる。 化学反応における、物質量、粒子の数、質量、気体の体積などの量的な関係を、化学反応式から読み取ることができる。 化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。 原子説の発見、分子説の発見にいたる物質探究の歴史を学び、化学の基礎法則を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 異なる質量の原子が混在する場合、その平均の質量を表す方法を見いだすことができる。 ある質量の物質の中に、原子や分子などが何個含まれているかを考えることができる。 モル質量の概念を使い、粒子の数・質量と物質量に関する計算ができる。 モル体積を用いて気体の体積と物質量に関する計算ができる。 2種類の濃度の求め方を理解し、その換算ができる。 正しい化学反応式が表せる。 化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や気体の体積変化でとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ原子でも異なる質量をもつものがあることに興味をもつ。 原子1個が小さなものかわかる。 多数の粒子を数えることは困難なので、まとめて扱うことが便利だということに気づく。 物質量の概念について興味をもち、粒子の数・質量・気体の体積との関係について説明できる。 溶液の濃さの表し方について興味をもつ。 多くの化学変化は化学反応式で表されることがわかる。 化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。
1 2	第2編 物質の変化	4.中和滴定	<ul style="list-style-type: none"> 濃度の表し方について、いろいろな方法があることを理解している。 目的の濃度の水溶液を調製できる。 化学反応における、物質量、粒子の数、質量、気体の体積などの量的な関係を、化学反応式から読み取ることができる。 化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。 原子説の発見、分子説の発見にいたる物質探究の歴史を学び、化学の基礎法則を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 異なる質量の原子が混在する場合、その平均の質量を表す方法を見いだすことができる。 ある質量の物質の中に、原子や分子などが何個含まれているかを考えることができる。 モル質量の概念を使い、粒子の数・質量と物質量に関する計算ができる。 モル体積を用いて気体の体積と物質量に関する計算ができる。 2種類の濃度の求め方を理解し、その換算ができる。 正しい化学反応式が表せる。 化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や気体の体積変化でとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ原子でも異なる質量をもつものがあることに興味をもつ。 原子1個が小さなものかわかる。 多数の粒子を数えることは困難なので、まとめて扱うことが便利だということに気づく。 物質量の概念について興味をもち、粒子の数・質量・気体の体積との関係について説明できる。 溶液の濃さの表し方について興味をもつ。 多くの化学変化は化学反応式で表されることがわかる。 化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。
		第3章 酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> 濃度の表し方について、いろいろな方法があることを理解している。 目的の濃度の水溶液を調製できる。 化学反応における、物質量、粒子の数、質量、気体の体積などの量的な関係を、化学反応式から読み取ることができる。 化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。 原子説の発見、分子説の発見にいたる物質探究の歴史を学び、化学の基礎法則を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 異なる質量の原子が混在する場合、その平均の質量を表す方法を見いだすことができる。 ある質量の物質の中に、原子や分子などが何個含まれているかを考えることができる。 モル質量の概念を使い、粒子の数・質量と物質量に関する計算ができる。 モル体積を用いて気体の体積と物質量に関する計算ができる。 2種類の濃度の求め方を理解し、その換算ができる。 正しい化学反応式が表せる。 化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や気体の体積変化でとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ原子でも異なる質量をもつものがあることに興味をもつ。 原子1個が小さなものかわかる。 多数の粒子を数えることは困難なので、まとめて扱うことが便利だということに気づく。 物質量の概念について興味をもち、粒子の数・質量・気体の体積との関係について説明できる。 溶液の濃さの表し方について興味をもつ。 多くの化学変化は化学反応式で表されることがわかる。 化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。
1 2	第2編 物質の変化	1.酸化と還元	<ul style="list-style-type: none"> 濃度の表し方について、いろいろな方法があることを理解している。 目的の濃度の水溶液を調製できる。 化学反応における、物質量、粒子の数、質量、気体の体積などの量的な関係を、化学反応式から読み取ることができる。 化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。 原子説の発見、分子説の発見にいたる物質探究の歴史を学び、化学の基礎法則を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 異なる質量の原子が混在する場合、その平均の質量を表す方法を見いだすことができる。 ある質量の物質の中に、原子や分子などが何個含まれているかを考えることができる。 モル質量の概念を使い、粒子の数・質量と物質量に関する計算ができる。 モル体積を用いて気体の体積と物質量に関する計算ができる。 2種類の濃度の求め方を理解し、その換算ができる。 正しい化学反応式が表せる。 化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や気体の体積変化でとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ原子でも異なる質量をもつものがあることに興味をもつ。 原子1個が小さなものかわかる。 多数の粒子を数えることは困難なので、まとめて扱うことが便利だということに気づく。 物質量の概念について興味をもち、粒子の数・質量・気体の体積との関係について説明できる。 溶液の濃さの表し方について興味をもつ。 多くの化学変化は化学反応式で表されることがわかる。 化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。
		2.酸化剤と還元剤	<ul style="list-style-type: none"> 濃度の表し方について、いろいろな方法があることを理解している。 目的の濃度の水溶液を調製できる。 化学反応における、物質量、粒子の数、質量、気体の体積などの量的な関係を、化学反応式から読み取ることができる。 化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。 原子説の発見、分子説の発見にいたる物質探究の歴史を学び、化学の基礎法則を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 異なる質量の原子が混在する場合、その平均の質量を表す方法を見いだすことができる。 ある質量の物質の中に、原子や分子などが何個含まれているかを考えることができる。 モル質量の概念を使い、粒子の数・質量と物質量に関する計算ができる。 モル体積を用いて気体の体積と物質量に関する計算ができる。 2種類の濃度の求め方を理解し、その換算ができる。 正しい化学反応式が表せる。 化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や気体の体積変化でとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ原子でも異なる質量をもつものがあることに興味をもつ。 原子1個が小さなものかわかる。 多数の粒子を数えることは困難なので、まとめて扱うことが便利だということに気づく。 物質量の概念について興味をもち、粒子の数・質量・気体の体積との関係について説明できる。 溶液の濃さの表し方について興味をもつ。 多くの化学変化は化学反応式で表されることがわかる。 化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。
1 2	第2編 物質の変化	3.金属の酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> 濃度の表し方について、いろいろな方法があることを理解している。 目的の濃度の水溶液を調製できる。 化学反応における、物質量、粒子の数、質量、気体の体積などの量的な関係を、化学反応式から読み取ることができる。 化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。 原子説の発見、分子説の発見にいたる物質探究の歴史を学び、化学の基礎法則を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 異なる質量の原子が混在する場合、その平均の質量を表す方法を見いだすことができる。 ある質量の物質の中に、原子や分子などが何個含まれているかを考えることができる。 モル質量の概念を使い、粒子の数・質量と物質量に関する計算ができる。 モル体積を用いて気体の体積と物質量に関する計算ができる。 2種類の濃度の求め方を理解し、その換算ができる。 正しい化学反応式が表せる。 化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や気体の体積変化でとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ原子でも異なる質量をもつものがあることに興味をもつ。 原子1個が小さなものかわかる。 多数の粒子を数えることは困難なので、まとめて扱うことが便利だということに気づく。 物質量の概念について興味をもち、粒子の数・質量・気体の体積との関係について説明できる。 溶液の濃さの表し方について興味をもつ。 多くの化学変化は化学反応式で表されることがわかる。 化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
理科・化学基礎		商業科・3年	2	化学基礎（数研出版）	・リードLightノート化学基礎 改訂版（数研出版）
科目の概要と目標		物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。			
月	単元	学習内容	評価方法		
			知識技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	化学と人間生活	生活の中での、さまざまな物質の利用について再発見をし、人間生活における役割について理解を深める。実験や観察を通して、探究の活動について理解を深める。	自然界のしくみには、基本的な概念・原理・法則があることを理解できる。基本的な実験を通し、観察法や実験の意味を考えることができる。	化学の成果が人間生活の向上に果たした役割を、具体例を踏まえて考察できる。	化学と人間生活における役割について関心を示し、理解しようとする。
5	物質の探究 物質の構成粒子	物質が原子、イオン、分子から構成されていることを理解する。構成粒子の違いと物質の種類の違いを理解する。	物質の構成粒子や量的関係に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。熱運動と物質の三態との関係から、代表的な物質について、常温、常圧での状態を理解し、知識として身につけている。実験において、質量や体積などの定量的な測定方法の技能が習得できているとともに、実験の測定結果から量的関係を的確に表現できる。	原子は原子核と電子からなっていて、電子の状態が物質の性質に大きく寄与していることを推論できる。物質の状態変化は、構成粒子の分子運動に関係し、それが温度や圧力によるものであることを論理的、総合的に判断できる。周期表から大まかな性質が判断できる。物質の状態に関して観察、実験を行い、それらに関する技能を習得し、それらの測定結果から物質の状態について考察できる。	物質に関心をもち、物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子からなっていることを探究しようとしている。物質の状態変化の現象について、粒子の運動と関連付けて探究しようとする。
6 7	イオン結合 共有結合と分子間力 金属結合 化学結合と物質	イオンの生成を電子配置と関連付けて理解し、イオン結合およびイオン結合からなる物質の性質を理解する。共有結合を電子配置と関連づけて理解し、分子からなる物質の性質を理解する。さらに、分子間に働く力により物質ができていることを理解する。金属原子間の結合及び金属からなる物質の性質を理解する。物質の結晶を結合の違いによって区別し、性質を整理する。具体的な物質について、それぞれ性質や利用例を理解する。	物質の構成粒子の違いによる結合・結晶の差異を代表的な物質から具体的に理解し、知識を身につけている。物質は結合の違いによって性質の違いがあり、区別できることを理解している。化学結合に関する観察、実験の操作や記録などの技能が習得でき、その結果より結論を表現できる。それぞれ物質の、結合による性質の違いを利用し、物質を見わける操作方法を選択できる。	物質の性質は、イオン結合、共有結合、金属結合などの結合の違いによって異なることを、代表的な物質の性質の比較から推論できる。それぞれの物質について、結合によって区別することができる。それぞれの物質の性質の性質を結合と関連付けて考えることができる。	物質の構造は、イオン結合、共有結合、金属結合などの結合の仕方の違いに関わりがあることを意欲的に探究しようとする。それぞれの結合とその結晶について、正確に区別し探究しようとする。身近な物質について、結合によって区別し、性質や利用例を日常の事象と関連付けて探究しようとする。
9 10	物質と化学反応式	原子量・分子量・式量などの物質の基本事項を学ぶ。物質と溶液の濃度の関係を学ぶ。化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。科学の進歩の歴史と基本的な法則の発見の経緯について理解する。	化学式を使用できるとともに、原子量、分子量、式量と物質の知識を身につけている。	原子量・分子量・式量と物質の定義を理解し、物質を用いた基本的な計算ができ、化学変化には一定の量的関係があることを考察できる。また、物質と溶液の濃度の関係を考察できる。考察して導き出した考えを的確に表現できる。表や図のデータなどから物質の性質を分析できる能力を身につけている。	代表的な物質の化学変化に注目し、化学変化の量的関係を物質と関連づけて考察しようとするとともに、意欲的にそれらを探究しようとする。
11 12	酸と塩基	水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度との関係およびpHについて理解する。酸と塩基の性質と中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。中和滴定と滴定曲線により、中和反応を理解する。	酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて酸・塩基反応をとらえることができ、さらに中和反応の量的関係を理解している。実験器具の取り扱いができると同時に、実験結果から濃度未知の酸や塩基の濃度を求める技能を修得している。	酸・塩基の強弱とpHの観察、実験などを通し、科学的に考察できる。また、酸・塩基の中和反応についても考察できる。考察して導き出した考えを的確に表現できる。	酸・塩基や中和反応に関心をもち、それらを日常生活に関連づけて意欲的に探究しようとする。身近な物質のpHを測定して考察するなど、身近な現象と酸・塩基反応を関連付けて意欲的に探究しようとする。
1 2	酸化還元反応	酸化・還元反応の定義を理解し、酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。酸化剤と還元剤の反応と酸化還元反応の起こりやすさを理解する。酸化還元反応と日常生活や社会生活とのかわりについて理解する。	電子の授受や参加数の変化から酸化還元反応を理解し、知識を身につけている。酸化還元反応の定義を理解し、日常生活と関連づけて酸化還元反応をとらえることができる。代表的な酸化剤や還元剤の観察、実験の報告書を作成する中で、電子の授受としての規則性を見だし、自らの考えで表現することができる。金属のイオン化傾向とそれらによる反応性の違いを理解し、実用電池や電気分解、金属の製錬など身近に酸化還元反応が利用されていることを知っている。	さまざまな観察、実験を通し、酸化・還元反応の定義と酸化数の定義の有効性を理解し、共通性を見だし、酸化還元反応として論理的に考察できる。酸化還元反応の例として、電池の実験を行い、その説明を科学的に表現できる。実用電池や金属の製錬と酸化還元反応との関連性を見だし、論理的に考察し、科学的に判断できる。	燃焼、金属の溶解、実用電池の利用に興味をもち、それらの共通性を意欲的に探究する。身近な現象や金属の製錬と酸化還元反応を関連付けて意欲的に探究しようとする。
3	化学が拓く世界	生活を支える科学技術について再発見をし、化学技術の粋割について理解を深める。化学に関わる科学技術について学び、化学を学ぶことに意欲をもち。	日常生活や社会において、様々な科学技術に支えられていることを理解している。安全な水道水を得るための科学技術、食品を保存するための科学技術、ものを洗浄するための科学技術等、化学が生活を豊かにするための課題を克服してきたことを知っている。	さまざまな観察・実験を通して、いかに日常生活や社会において科学技術が密接な関係にあるのかを理解し、関連づけて論理的に考察できる。日常生活や社会から切り離せない安全な水道水の確保、食品の保存、ものを洗浄することなど、科学技術を通して、化学基礎で学んだことがどのようにいかされているかを考察し、科学的に判断できる。食品中に含まれているビタミンCが、どのくらい含まれているかを酸化還元滴定の観察、実験の報告書を作成する中で、還元剤が食品にかわり酸化されることにより、食品が参加されることを防いでいることを、自ら考察して表現できる。	身近にある飲料水、食品、ものを洗浄する力など日常生活で不可欠なものに対して興味をもち、それらが化学基礎のどの分野と関連が深いかを意欲的に探究する。

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
理科・生物基礎		くすり・バイオ科・3年	3	数研出版 高等学校 生物基礎	リード Light ノート生物基礎
科目の概要と目標		日常生活や社会と関連づけながら、生物や生物現象に対する関心を高め、目的意識をもって観察、実験を行い、生物学的に探究する能力と態度を養う。生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。			
月	単元	学習内容	評価方法		
			知識技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	生物の多様性と共通性	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生物の共通点 生物の共通性としての細胞 ミトコンドリアと葉緑体の起源 	<ul style="list-style-type: none"> 生物が「細胞からできている」、「生命活動にはエネルギーが必要」、「遺伝情報として DNA をもっている」などの共通性をもつことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな生物の比較に基づいて、すべての生物に見られる特徴について考え、共通性を見いだすことができる。 進化の過程において、真核細胞と原核細胞のどちらが先に現れたのか、理由とともに説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生物の多様性と共通性に関心をもち、主体的に学習に取り組める。
5	エネルギーと代謝 呼吸と光合成	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーと代謝 代謝に関わる酵素 生体内におけるエネルギー変換 	<ul style="list-style-type: none"> 生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーは ATP の形で供給されていることを理解する。 呼吸・光合成の過程で ATP が合成されることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「1日の消費エネルギーの算出」を行い、自分自身が1日で消費するエネルギーの量を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーと代謝に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 呼吸と光合成に関心をもち、主体的に学習に取り組める。
6 7	遺伝情報とDNA 遺伝情報の複製と分配 遺伝情報の発現	<ul style="list-style-type: none"> DNAの構造 ゲノムと遺伝情報 細胞分裂とDNAの複製 細胞周期とDNAの複製 遺伝情報の流れ 転写 翻訳 遺伝子の発現と生命現象 	<ul style="list-style-type: none"> DNAの構造および塩基の相補性を理解する。 DNAが半保存的複製という方法によって正確に複製されることを理解する。 細胞周期の進行に伴って、DNAが複製され、分配されることを理解する。 DNAの遺伝情報をもとにタンパク質が合成される、転写・翻訳の過程を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> DNAの構造を示した模式図に基づいて、塩基の相補性などのDNAの構造の特徴を見いだすことができる。 複製前後のDNAの模式図を比較し、DNAの正確な複製には塩基の相補性が利用されていることに気づき、説明できる。 コドンが塩基3個の配列で20個のアミノ酸を指定している理由について考え、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝情報とDNAに関心をもち、主体的に学習に取り組める。 遺伝情報の複製と分配に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 遺伝情報の発現に関心をもち、主体的に学習に取り組める。
9 10	体内環境の維持のしくみ 免疫のはたらき	<ul style="list-style-type: none"> 体内環境の特徴 心臓と血液循環 体内環境を調節する器官 自律神経系による調節 内分泌系による調節 自律神経とホルモンによる協同作業 免疫 自然免疫 適応免疫 免疫とヒト 	<ul style="list-style-type: none"> 体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解する。 自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解する。 自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> チロキシンに例に、フィードバックがはたらかなくなった場合、どのようなことが起こるかを考え、説明することができる。 血糖濃度とインスリン濃度の変化の1日のグラフを見て、健康な人と糖尿病患者の血糖濃度やインスリン濃度の変化の違いについて考察することができる。 抗原が体内に侵入したときの、抗体の産生量の変化を示したグラフから、同じ感染症に再びかかりにくくなる理由を考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体内での情報伝達と調節に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 体内環境の維持のしくみに関心をもち、主体的に学習に取り組める。 免疫のはたらきに関心をもち、主体的に学習に取り組める。
11 12	植生と遷移 植生の分布とバイオーム 生態系と生物の多様性 生態系のバランスと保全	<ul style="list-style-type: none"> 植生と生態系 植生の遷移 地球上の植生分布 陸上のバイオーム 生態系でのエネルギーの流れ 生態系での物質の循環 生態系のバランスと保全 生物多様性の保全 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな植生とその特徴を理解する。 植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解する。 生態系がどのように構成されているのかを理解する。 生態系において種多様性が維持されるしくみを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、説明できる。 生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 植生と遷移に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 生態系と生物の多様性に関心をもち、主体的に学習に取り組める。
1 2					
3					

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
理科・生物基礎		情報デザイン科・3年	2	高等学校生物基礎（数研出版）	新課程 リードLight ノート生物基礎（数研出版）
<p>科目の概要と目標</p> <p>1 現代生物学の基礎となる代謝，遺伝子，恒常性，免疫，生態系といった基礎的な内容を，最先端の生物学を織り交ぜながら学習する。</p> <p>2 生物の多様性の中から法則を導き，その中の法則に基づきながら共通性を見いだしていく。</p> <p>3 観察・実験を通して自然を科学的に探求する能力を育てる。さらに，実験に対する目的，仮説，準備，方法，結果，考察，発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。</p> <p>4 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て，生命を尊重する精神を養う。</p>					
月	単元	学習内容	評価方法		
			知識技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝	生物の多様性，生物の多様性・共通性とその由来，生物の共通性としての細胞 生命活動とエネルギー，代謝とエネルギー，ATP	<ul style="list-style-type: none"> 生物が共通性をもつことを理解する。 生命活動にはエネルギーが必要であり，そのエネルギーは ATP の形で供給されていることを理解する。 ATP が生命活動にエネルギーを供給するしくみについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな生物の比較に基づいて，すべての生物に見られる特徴について考え，共通性を見いだすことができる。 原核細胞と真核細胞の共通点と相違点を見いだすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生物の多様性と共通性に関心を持ち，主体的に学習に取り組める。 エネルギーと代謝に関心を持ち，主体的に学習に取り組める。
5	3. 呼吸と光合成 遺伝子とのはたらき 1. 遺伝情報と DNA	呼吸，光合成，エネルギーの流れ，酵素 遺伝情報を含む物質-DNA，DNA の構造	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸・光合成の過程で ATP が合成されることを理解する。 酵素の触媒作用と基質特異性について理解する。 生体内の化学反応が，酵素のはたらきによって進行していることを理解する。 DNA の構造および塩基の相補性を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 植物がエネルギーを取り入れる方法について説明できる。 動物や植物がどのようにエネルギーを獲得しているかを調べ，説明できる。 DNA の構造を示した模式図に基づいて，塩基の相補性などの DNA の構造の特徴を見いだすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸と光合成に関心を持ち，主体的に学習に取り組める。 遺伝情報と DNA に関心を持ち，主体的に学習に取り組める。
6 7	2. 遺伝情報の複製と分配 3. 遺伝情報の発現	遺伝情報の複製，遺伝情報の分配 遺伝情報とタンパク質，タンパク質の合成，分化した細胞の遺伝子発現，遺伝情報と遺伝子，ゲノム	<ul style="list-style-type: none"> DNA の塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。 細胞周期の進行に伴って，DNA が複製され，分配されることを理解する。 DNA の遺伝情報をもとにタンパク質が合成される，転写・翻訳の過程を理解する。 分化した細胞では，細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> DNA の正確な複製には塩基の相補性が利用されていることに気づき，説明できる。 DNA の塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を見いだすことができる。 からだを構成する細胞において，すべての遺伝子が常に発現しているわけではないことに気づき，各部位で発現する遺伝子の違いによって各細胞が異なる形やはたらきをもっていることを見いだすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝情報の複製と分配に関心を持ち，主体的に学習に取り組める。 遺伝情報の発現に関心を持ち，主体的に学習に取り組める。
9	ヒトの体内環境の維持 1. 体内での情報伝達と調節 2. 体内環境の維持のしくみ	体内での情報伝達，神経系による情報の伝達と調節 体内環境の維持，血糖濃度の調節のしくみ，血液の循環を維持するしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 体内での情報伝達が，からだの状態の調節に関係していることを理解する。 自律神経系と内分泌系が，からだを調節するしくみを理解する。 自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解する。 血液凝固のはたらきについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事例において，からだの状態がどのように変化するかを交感神経と副交感神経のはたらきに注目して考え，説明することができる。 血糖濃度とインスリンのはたらきとの関係に気づき，説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体内環境の維持のしくみに関心を持ち，主体的に学習に取り組める。
10	3. 免疫のはたらき	からだを守るしくみ-免疫，自然免疫，適応免疫，免疫と病気	<ul style="list-style-type: none"> 自然免疫・適応免疫のしくみと，それにはたらく細胞の役割を理解する。 免疫記憶のしくみを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 抗原が体内に侵入したときの，抗体の産生量の変化を示したグラフから，同じ感染症に再びかかりにくくなる理由を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 免疫のはたらきに関心を持ち，主体的に学習に取り組める。
11 12	第4章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移 2. 植生の分布とバイオーム	植生，植生の遷移 バイオームの成立，世界のバイオーム，日本のバイオーム	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな植生とその特徴を理解する。 植生の遷移の過程と，遷移が進行する要因について理解する。 世界および日本に見られるさまざまなバイオームが，気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解する。 日本に分布するバイオームについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 遷移の過程を示した資料をもとに，遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因，植生の樹種が交代する要因について考察し，説明できる。 地球の気温が上昇すると，バイオームの垂直分布がどのように変化するかを推測することができる。 特定の場所の植生が，時間の経過とともにどのように変化するかを推測し，説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 植生と遷移に関心を持ち，主体的に学習に取り組める。 植生の分布とバイオームに関心を持ち，主体的に学習に取り組める。
1 2 3	3. 生態系と生物の多様性 4. 生態系のバランスと保全	生態系の成りたち，生態系と種多様性，生物どうしのつながり 生態系のバランス，人間の活動と生態系，生態系の保全	<ul style="list-style-type: none"> 生態系がどのように構成されているのかを理解する。 生態系において種多様性が維持されるしくみを理解する。 生態系のバランスが保たれているとはどのような状態かを理解する。 生態系の保全のために，どのような活動が行われているかを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき，ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し，説明できる。 外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに，外来生物が在来魚に与えた影響を考察し，説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生態系と生物の多様性に関心を持ち，主体的に学習に取り組める。 生態系のバランスと保全に関心を持ち，主体的に学習に取り組める。

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
理科・地学基礎		普通科（体育コース）情報デザイン・3年	2	高等学校地学基礎(第一学習社)	ネオパルノート地学基礎(第一学習社)
科目の概要と目標		日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、自ら課題を設定し、見通しをもって観察、実験などを行うことができる、科学的に探究する資質・能力を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的に探究しようとする態度を養う。			
月	単元	学習内容	評価方法		
			知識技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	地球のすがた	地球の概観 プレートの運動	計算によって地球の大きさを求めることができる。緯度1°あたりの経線の長さの測量について理解し、知識を身に付けている。地球内部の区分の違い、プルームについて理解し、知識を身に付けている。造山帯の形成、大陸地殻の形成・成長の過程を理解し、知識を身に付けている。	グラフを判読し、地球内部の構成物質の違いについて考察することができる。大地形について、プレートの運動との関連を考察することができる。プレートテクトニクスという概念を理解し、地殻の変動について、プレートの運動によって説明することができる。	地球内部の層構造や各層を構成する物質の違いに関心をもち、地球内部のなりたちを意欲的に探究しようとしている。大地形の形成とプレートテクトニクスについて関心をもち、地殻変動とプレートの運動との関係について意欲的に学習しようとしている。
5 6	地球の活動	地震	断層の種類や褶曲について、形成される条件などの特徴を理解し、知識を身に付けている。断層の種類や褶曲について特徴を理解し、知識を身に付けている。地震波や大森公式について理解し、知識を身に付けている。日本付近の地震の分布と種類を理解し、知識を身に付けている。	変成作用と変成岩について関心をもち、プレートの運動と関連させて、意欲的に学習しようとしている。世界の地震分布に関する資料を判読し、地震の分布の特徴を、地下のプレートと関連させて見いだすことができる。大森公式を利用して、初期微動継続時間から震源距離を求めることができる。	断層の形式と褶曲について関心をもち、地殻の変動のようすを解明する方法を意欲的に習得しようとしている。地震の発生と分布の特徴に関心をもち、プレートテクトニクスについてプレートテクトニクスと関連させて、意欲的に探究しようとしている。
		火山活動	火山の形成過程について、地下のプレートと関連させて理解し、知識を身に付けている。噴火のしくみ、火山噴出物の種類、噴火の様式とマグマの性質の関係について理解し、知識を身に付けている。火山の形の特徴とマグマの性質との関係を理解し、知識を身に付けている。火成岩のおもな造岩鉱物、火成岩の分類、偏光顕微鏡による造岩鉱物の特徴を理解し、知識を身に付けている。	資料から、マグマの発生する場所について、地下のプレートと関連させて考察することができる。マグマの性質と噴火の様式や火山の形を示す表から、実際の火山について、その形とマグマの性質の関連を考察することができる。火成岩の組織と、岩石中に含まれる造岩鉱物の量をもとにして、岩石名を判断することができる。	火山の形成に関心をもち、火山活動について意欲的に学習しようとしている。火山噴出物と火山の噴火に関心をもち、火山活動について意欲的に学習しようとしている。火山の形に関心をもち、火山活動について意欲的に探究しようとしている。火成岩のおもな造岩鉱物の特徴、火成岩の分類に関心をもち、火成岩のなりたちを意欲的に学習しようとしている。
9 10 11	大気と海洋	地球のエネルギー収支 大気と海水の運動	大気の組成と圧力、大気圏の構造について理解し、知識を身に付けている。大気中の水の変化と、大気に含まれる水蒸気量と温度の関係を理解し、知識を身に付けている。太陽放射、太陽定数、地球放射を理解し、知識を身に付けている。大気のエネルギー収支、温室効果、放射冷却を理解し、知識を身に付けている。緯度ごとのエネルギー収支、地球における南北の熱の輸送を理解し、知識を身に付けている。風が吹くしくみ、海陸風や季節風の違いを理解し、知識を身に付けている。エルニーニョ現象やラニーニャ現象について理解し、知識を身に付けている。	高度別の気温のデータから、グラフを作成し、大気圏が高度による気温の変化にもとづいて区分されていることを確認することができる。飽和水蒸気圧と温度との関係を示すグラフから、相対湿度を計算によって求めることができる。大気のエネルギー収支の図において、地球のエネルギー収支の平衡を数値で確認することができる。エルニーニョ現象やラニーニャ現象が発生したときに、日本の気候に与える影響について考察することができる。	大気の組成、大気の圧力、大気圏の構造、オゾン層に関心をもち、各種の気象情報を積極的に日常生活に利用しようとしている。大気中の水の変化、雲の発生、降水のしくみについて関心をもち、天気の変り変わりのしくみを意欲的に学習しようとしている。太陽放射と地球放射に関心をもち、太陽エネルギーの働きについて意欲的に学習しようとしている。風が吹くしくみに関心をもち、海陸風や季節風について意欲的に学習しようとしている。
12 1	宇宙と地球	宇宙と太陽の誕生 太陽系と地球の誕生	宇宙の始まり、銀河系の構造について理解し、知識を身に付けている。太陽の誕生過程やエネルギー源について理解し、知識を身に付けている。太陽の表面や外層における活動について理解し、知識を身に付けている。太陽系の構造と誕生過程、地球型惑星と木星型惑星の違いを理解し、知識を身に付けている。太陽系の小惑星の特徴を理解し、知識を身に付けている。地球型惑星と木星型惑星の特徴を理解し、知識を身に付けている。生命が誕生する条件、原始地球の誕生過程や原始地球の進化から地球に生命が存在する理由について理解し、知識を身に付けている。	宇宙の探究の歴史に関心をもち、宇宙の構造やその誕生過程について意欲的に探究しようとしている。星団の観察を通して、星団の位置を確認し、恒星や銀河について理解を深めることができる。太陽の黒点の観察を通して、太陽の活動について理解を深めることができる。太陽系の形成時の位置や質量などの違いによって、地球型惑星と木星型惑星の内部構造が違うことを考察できる。木星の衛星の観察を通して、衛星が木星の周りを公転していることを確認できる。それぞれの惑星の環境の違いから、その違いの要因について考察することができる。	宇宙の始まりについて意欲的に探究しようとしている。地球上にさまざまな影響を与える太陽の活動を意欲的に学習しようとしている。地球に生命が存在する理由に関心をもち、原始地球の誕生過程や進化について意欲的に学習しようとしている。
2	生物の変遷と地球環境	地層と化石 地球と生物の変遷	層の形成について理解し、知識を身に付けている。整合と不整合、地層の対比、堆積構造について理解し、知識を身に付けている。堆積岩の形成、堆積岩の種類を理解し、知識を身に付けている。さまざまな化石のでき方、示相化石と示準化石、相対年代と数値年代の違いについて理解し、知識を身に付けている。地質時代の区分について理解し、知識を身に付けている。先カンブリア時代から新生代第四紀までの、地球と生物の変遷を理解し、知識を身に付けている。	層の重なりや堆積構造などから堆積環境を調べる方法を意欲的に習得しようとしている。グラフから、当時の環境や、生物の進化・絶滅について考察することができる。	堆積岩の形成に関心をもち、堆積環境を調べる方法を意欲的に習得しようとしている。さまざまな化石のでき方、示相化石と示準化石について関心をもち、地質時代のできごとを解明する方法を意欲的に習得しようとしている。
	地球の環境	地球環境の科学 日本の自然環境	気候変動や地球温暖化の原因、地域による影響の違いを理解し、知識を身に付けている。地震や津波による被害から、その対策について理解し、知識を身に付けている。	地球温暖化に関する資料を判読し、地球温暖化の原因や、影響を考察することができる。ハザードマップを判読することができる。	地球の気候変動と環境への影響や人間活動との関わりに関心をもち、意欲的に学習しようとしている。気団に関心をもち、四季の天気の変り変わりを意欲的に学習しようとしている。

教科・科目		対象学 科 ・学年	単 位 数	教科書		使用教材	
保健体育 ・ 体育		普通科 工業科 商業科 1年男子	3	新高等保健体育 (大修館書店)		Active Sports 2024 (大修館書店)	
科目の概要 と目標		運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるように知るため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。					
月	単 元	学 習 内 容	評価方法				
			知識 技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り 組む態度		
4・ 5・ 6・7	体育理論	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展	運動を持続する意義、身体構造、運動の原理などを理解しているかなどを授業や学習カードなどで評価する。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し、文章で表現しているかなどを授業や学習カードなどで評価する。	自主的に取り組むとともに、互いに田請け合おうとし、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとしているかなどを授業や出席状況などで評価する。		
	体づくり運動	体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画					
	陸上競技	短距離走・長距離走					
	球技	ソフトボール					
9・ 10・ 11	体育理論	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展	安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前などから攻防をすることができるかなどを授業や学習カードなどで評価する。	攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し、自己や仲間の考えたことを他者に伝えているかなどを授業や学習カードなどで評価する。	フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについて話し合いに貢献しようとしているかなどを授業や出席状況などで評価する。		
	体づくり運動	体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画					
	球技	サッカー バレーボール					
	武道	剣道					
1・ 2・3	体育理論	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展	役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるかなどを授業や学習カードなどで評価する。	動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し、文章で表現しているかなどを授業や学習カードなどで評価する。	自主的に授業に取り組み、一人一人の違いに応じたプレイを大切にしようとしているかなどを授業や出席状況などで評価する。		
	体づくり運動	体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画					
	球技	バスケットボール					

教科・科目		対象学 科 ・学年	単 位 数	教 科 書	使 用 教 材
保健体育 ・ 体育		普通科 工業科 商業科 1年女子	3	新高等保健体育 (大修館書店)	Active Sports 2024 (大修館書店)
科目の概要 と目標 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるように知るため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。					
月	単 元	学 習 内 容	評 価 方 法		
			知 識 技 能	思 考・判 断・表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
4・ 5・ 6・7	体 育 理 論 体 つ く り 運 動 陸 上 競 技 球 技	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画 短距離走・長距離走 ソフトボール	運動を持続する意義、身体構造、運動の原理などを理解しているかなどを授業や学習カードなどで評価する。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し、文章で表現しているかなどを授業や学習カードなどで評価する。	自主的に取り組むとともに、互いに田請け合おうとし、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとしているかなどを授業や出席状況などで評価する。
9・ 10・ 11	体 育 理 論 体 つ く り 運 動 球 技 武 道	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画 サッカー バレーボール 剣道	安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前などから攻防をすることができるかなどを授業や学習カードなどで評価する。	攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し、自己や仲間の考えたことを他者に伝えているかなどを授業や学習カードなどで評価する。	フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについて話合いに貢献しようとしているかなどを授業や出席状況などで評価する。
1・ 2・3	体 育 理 論 体 つ く り 運 動 球 技	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画 バスケットボール	役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるかなどを授業や学習カードなどで評価する。	動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し、文章で表現しているかなどを授業や学習カードなどで評価する。	自主的に授業に取り組み、一人一人の違いに応じたプレイを大切にしようとしているかなどを授業や出席状況などで評価する。

教科・科目	対象学 科 ・学年	単 位 数	教 科 書	使 用 教 材	
保健体育 ・ 体育	普通科 体育コース 1年男子	2	新高等保健体育 (大修館書店)	Active Sports 2024 (大修館書店)	
科目の概要 と目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるように知るため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。				
月	単 元	学 習 内 容	評 価 方 法		
			知識 技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り 組む態度
4・ 5・ 6・7	体 育 理 論 体 つ く り 運 動 陸 上 競 技 球 技	スポーツの文化的特性や現 代のスポーツの発展 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画 短距離走・長距離走 ソフトボール	運動を持続する 意義、身体の構 造、運動の原理 などを理解して いるかなどを授 業や学習カード などで評価す る。	自己や仲間の課題を 発見し、合理的な解決 に向けて運動の取り 組み方を工夫し、文章 で表現しているかな どを授業や学習カー ドなどで評価する。	自主的に取り組む とともに、互いに田 請け合おうとし、一 人一人の違いに応 じた動きなどを大 切にしようとして いるかなどを授業 や出席状況などで 評価する。
9・ 10・ 11	体 育 理 論 体 つ く り 運 動 球 技 武 道	スポーツの文化的特性や現 代のスポーツの発展 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計 画 サッカー バレーボール 剣道	安定したボール 操作と空間を作 り出すなどの動 きによってゴール 前などから攻 防をすることが できるかなどを 授業や学習カー ドなどで評価す る。	攻防などの自己や仲 間の課題を発見し、合 理的な解決に向け て運動の取り組み方 を工夫し、自己や仲 間の考えたことを他 者に伝えているかな どを授業や学習カー ドなどで評価する。	フェアなプレイを 大切にしようとし、 作戦などについて 話合いに貢献しよ うとしているかな どを授業や出席状 況などで評価する。
1・ 2・3	体 育 理 論 体 つ く り 運 動 球 技	スポーツの文化的特性や現 代のスポーツの発展 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計 画 バスケットボール	役割に応じたボ ール操作や安定 した用具の操作 と連携した動き によって空いた 場所をめぐる攻 防をすることが できるかなどを 授業や学習カー ドなどで評価す る。	動きなどの自己や仲 間の課題を発見し、合 理的な解決に向け て運動の取り組み方 を工夫し、文章で表 現しているかなど を授業や学習カー ドなどで評価す る。	自主的に授業に取 り組み、一人一人 の違いに応じたプ レイを大切にしよ うとしているかな どを授業や出席状 況などで評価する。

教科・科目	対象学 科 ・学年	単 位 数	教 科 書	使 用 教 材	
保健体育 ・ 体育	普通科 体育コース 1年女子	2	新高等保健体育 (大修館書店)	Active Sports 2024 (大修館書店)	
科目の概要 と目標		運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるように知るため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。			
月	単 元	学 習 内 容	評 価 方 法		
			知識 技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り 組む態度
4・ 5・ 6・7	体 育 理 論 体 つ く り 運 動 陸 上 競 技 球 技	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画 短距離走・長距離走 ソフトボール	運動を持続する意義、身体構造、運動の原理などを理解しているかなどを授業や学習カードなどで評価する。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し、文章で表現しているかなどを授業や学習カードなどで評価する。	自主的に取り組みるとともに、互いに田請け合おうとし、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとしているかなどを授業や出席状況などで評価する。
9・ 10・ 11	体 育 理 論 体 つ く り 運 動 球 技 武 道	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画 サッカー バレーボール 剣道	安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前などから攻防をすることができるかなどを授業や学習カードなどで評価する。	攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し、自己や仲間の考えたことを他者に伝えているかなどを授業や学習カードなどで評価する。	フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについて話し合いに貢献しようとしているかなどを授業や出席状況などで評価する。
1・ 2・3	体 育 理 論 体 つ く り 運 動 球 技	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画 バスケットボール	役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるかなどを授業や学習カードなどで評価する。	動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し、文章で表現しているかなどを授業や学習カードなどで評価する。	自主的に授業に取り組み、一人一人の違いに応じたプレイを大切にしようとしているかなどを授業や出席状況などで評価する。

教科・科目		対象学 科 ・学年	単 位 数	教科書	使用教材																		
保健体育 ・ 保健		普通科 工業科 商業科 ・ 1年	1	新高等保健体育 (大修館書店)	新高等保健体育ノート (大修館書店)																		
科目の概 要 と目標		<p>現代社会における健康やその対策の考え方が変化していることを理解する。 生活習慣病や喫煙、飲酒、薬物乱用、エイズなどの問題に対応する必要があることを理解する。また、適切な意思決定と行動選択が重要となることを理解する。 ストレスに適切に対処することや自己実現を図る努力が必要であることを理解する。 交通事故を防ぐためには適切な行動や交通環境の整備が重要であることを理解する。 障害や疾病に際して応急手当を適切に行うことが重要であることを理解する。 各分野で対策や解決方法を考え、伝え合うことができるようにする。 健康について、自主的に学習に取り組むことができるようにする。</p>																					
月	単 元	学 習 内 容	評価方法																				
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む 態度																		
4 5	現代 社会 と 健康	<ul style="list-style-type: none"> 日本における健康課題の変遷 健康の考え方と成り立ち ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり 健康に関する意思決定・行動選択 現代における感染症の問題 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防 	<p>適切な意思決定と行動選択が重要となることを理解することができる。 感染症の予防には、適切な対策が必要であることを理解する。 性感染症やエイズから身を守るために個人の適切な意思決定や行動選択が重要であることを理解する。</p>	<p>現代社会における健康やその対策の考え方が変化していることを理解することができ、現在の日本の健康課題を把握し、その解決方法を考え、伝え合うことができる。</p>	<p>日本の健康課題について知識を深め、自主的に学習に取り組んでいる。</p>																		
	6 7	現代 社会 と 健康				<ul style="list-style-type: none"> 現代における感染症の問題 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防 	9 10	現代 社会 と 健康	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の予防と回復 身体活動・運動と健康 食事と健康 休養・睡眠と健康 	<p>生活習慣病や喫煙、飲酒、薬物乱用などの問題に対応する必要があることを理解することができる。 ストレスに適切に対処することや自己実現を図る努力が必要であることを理解することができる。</p>	<p>生活習慣病や喫煙、飲酒、薬物乱用などの問題に対応する必要があることを理解し、自分自身や家庭、学校でどのような対策をすればよいか考えられる。 自分の生活行動の課題を分析し、行動実践に向けて必要な取り組みを整理し、説明することができる。</p>	<p>自らの健康に向き合い、自主的に学習に取り組んでいる。</p>	11 12	現代 社会 と 健康	<ul style="list-style-type: none"> がん予防と回復 喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用 	1	現代 社会 と 健康	<ul style="list-style-type: none"> 精神疾患の特徴 精神疾患への対応 	<p>精神の健康を保持増進するためには、欲求やストレスに適切に対処する必要があることや自己実現を図る努力が必要であることを理解することができる。</p>	<p>自分自身の心身についてどのような対策をすればよいか考え実行することができる。</p>	<p>自らの心の状態について把握し、対処できることを考え学習に取り組んでいる。</p>	2 3	安全 な 社会 生活
9 10	現代 社会 と 健康	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の予防と回復 身体活動・運動と健康 食事と健康 休養・睡眠と健康 	<p>生活習慣病や喫煙、飲酒、薬物乱用などの問題に対応する必要があることを理解することができる。 ストレスに適切に対処することや自己実現を図る努力が必要であることを理解することができる。</p>	<p>生活習慣病や喫煙、飲酒、薬物乱用などの問題に対応する必要があることを理解し、自分自身や家庭、学校でどのような対策をすればよいか考えられる。 自分の生活行動の課題を分析し、行動実践に向けて必要な取り組みを整理し、説明することができる。</p>	<p>自らの健康に向き合い、自主的に学習に取り組んでいる。</p>																		
	11 12	現代 社会 と 健康				<ul style="list-style-type: none"> がん予防と回復 喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用 	1	現代 社会 と 健康	<ul style="list-style-type: none"> 精神疾患の特徴 精神疾患への対応 	<p>精神の健康を保持増進するためには、欲求やストレスに適切に対処する必要があることや自己実現を図る努力が必要であることを理解することができる。</p>	<p>自分自身の心身についてどのような対策をすればよいか考え実行することができる。</p>	<p>自らの心の状態について把握し、対処できることを考え学習に取り組んでいる。</p>	2 3	安全 な 社会 生活	<ul style="list-style-type: none"> 事故の現状と発生要因 交通事故予防の取り組み 安全な社会の形成 応急手当の意義と救急医療体制 心肺蘇生法 日常的な応急手当 	<p>応急処置には正しい手順や方法があることを理解し、障害や疾病に際して心肺蘇生法などの手当てを行うことが重要であり、適切な救急医療体制の利用に応用できる。</p>	<p>交通事故を防止するための必要な事柄を理解し、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができる。</p>	<p>安全な社会生活について関心をもち、自主的に学習に取り組んでいる。</p>					
1	現代 社会 と 健康	<ul style="list-style-type: none"> 精神疾患の特徴 精神疾患への対応 	<p>精神の健康を保持増進するためには、欲求やストレスに適切に対処する必要があることや自己実現を図る努力が必要であることを理解することができる。</p>	<p>自分自身の心身についてどのような対策をすればよいか考え実行することができる。</p>	<p>自らの心の状態について把握し、対処できることを考え学習に取り組んでいる。</p>																		
2 3	安全 な 社会 生活	<ul style="list-style-type: none"> 事故の現状と発生要因 交通事故予防の取り組み 安全な社会の形成 応急手当の意義と救急医療体制 心肺蘇生法 日常的な応急手当 	<p>応急処置には正しい手順や方法があることを理解し、障害や疾病に際して心肺蘇生法などの手当てを行うことが重要であり、適切な救急医療体制の利用に応用できる。</p>	<p>交通事故を防止するための必要な事柄を理解し、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができる。</p>	<p>安全な社会生活について関心をもち、自主的に学習に取り組んでいる。</p>																		

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
保健体育 ・ 体育	普通科 工業科 商業科 2年男子	2	現代高等保健体育改訂版 (大修館書店)	Active Sports 2023 (大修館書店)
科目の概要 と目標	運動についての科学的な理解を深め、運動の合理的な実践ができる。 運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる			
学期	単元	学習内容	到達度目標	
1	体育理論 体づくり運動 陸上競技 球技	スポーツの技術と戦術 技能の上達過程と練習 体力を高める運動 短距離走・長距離走 ソフトボール サッカー バレーボール バスケットボール	運動技能を高めるための練習法について理解させる。 健康の増進や体力の向上に役立たせる事ができる。 記録向上の喜びや競走の楽しさを味わう事ができる。 集団的技能、個人的技能を身に付ける事ができる。 学習段階に応じた作戦を立て、ゲームができる。	
2	体育理論 体づくり運動 球技 ダンス	効果的な動きのメカニズム 技能と体力 体ほぐし運動 バレーボール バスケットボール バドミントン ダンス	記録・パフォーマンスを高めるために必要な事柄を学習する。 運動の楽しさや心地よさを味わうことができる。 個人的技能を身に付ける事ができる。また学習段階に応じた作戦を立て、ゲームができる。 勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わう事ができる。 イメージをとらえて自己を表現することに楽しさや喜びを味わうことができる。	
3	体育理論 体づくり運動 球技	体力トレーニング 運動時の安全確保 体力を高める運動 バスケットボール バドミントン	体力向上のメカニズムとトレーニング方法について学ぶ。 安全に楽しく運動やスポーツ活動を行うために必要な知識やスキルを身につける。 運動を継続する意義、運動の原則などが理解できる。 球技の特性や魅力に応じて、ゲームを展開するための作戦や状況に応じた技能を身につける。	

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
保健体育 ・ 体育	普通科 工業科 商業科 2年女子	2	現代高等保健体育改訂版 (大修館書店)	Active Sports 2023 (大修館書店)
科目の概要 と目標	運動についての科学的な理解を深め、運動の合理的な実践ができる。 運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる			
学期	単元	学習内容	到達度目標	
1	体育理論 体づくり運動 陸上競技 球技	スポーツの技術と戦術 技能の上達過程と練習 体力を高める運動 短距離走・長距離走 ソフトボール サッカー バレーボール バスケットボール	運動技能を高めるための練習法について理解させる。 健康の増進や体力の向上に役立たせる事ができる。 記録向上の喜びや競走の楽しさを味わう事ができる。 集団的技能、個人的技能を身に付ける事ができる。 学習段階に応じた作戦を立て、ゲームができる。	
2	体育理論 体づくり運動 球技 ダンス	効果的な動きのメカニズム 技能と体力 体ほぐし運動 バレーボール バスケットボール バドミントン ダンス	記録・パフォーマンスを高めるために必要な事柄を学習する。 運動の楽しさや心地よさを味わうことができる。 個人的技能を身に付ける事ができる。また学習段階に応じた作戦を立て、ゲームができる。 勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わう事ができる。 イメージをとらえて自己を表現することに楽しさや喜びを味わうことができる。	
3	体育理論 体づくり運動 球技	体力トレーニング 運動時の安全確保 体力を高める運動 バスケットボール バドミントン	体力向上のメカニズムとトレーニング方法について学ぶ。 安全に楽しく運動やスポーツ活動を行うために必要な知識やスキルを身につける。 運動を継続する意義、運動の原則などが理解できる。 球技の特性や魅力に応じて、ゲームを展開するための作戦や状況に応じた技能を身につける。	

教科・科目		対象学 科 ・学年	単 位 数	教科書	使用教材
保健体育 ・ 保健		普通科 工業科 商業科 ・ 2年	1	新高等保健体育 (大修館書店)	新高等保健体育ノート (大修館書店)
科目の概要 と目標		思春期から結婚、妊娠、出産までの健康について理解する。 性意識の男女差、適切な性行動の選択について理解する。 中高年期の健康及び各段階で必要となる保健・医療サービスの活用方法を理解する。 健康に関連する環境問題について理解する。 健康に関連する食品問題について理解する。 働くことと健康との関係について理解する。			
月	単 元	学 習 内 容	評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む 態度
4 5	現代 社会 と 健康	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期と健康 ・性意識の変化と性行動の選択 ・結婚生活と健康 	<p>思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>生涯の各段階における健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</p> <p>思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。</p> <p>結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。</p> <p>加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。</p>	生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
6 7	現代 社会 と 健康	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠・出産と健康 ・家族計画 ・加齢と健康 ・高齢社会に対応した取り組み 	<p>受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもつこと、運動やスポーツに取り組むことなどが関係することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>環境と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</p>	生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
9 10	現代 社会 と 健康	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことと健康 ・労働災害の防止 ・働く人の健康づくり 	人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて理解したことを言ったり書いたりしている。		
11 12	現代 社会 と 健康	<ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染と健康 ・水質汚濁・土壌汚染と健康 ・健康被害の防ぐための環境対策 ・環境衛生に関わる活動 			
1	現代 社会 と 健康	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全性と健康 ・食品の安全性を確保する取り組み 	人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性が損なわれると、健康に深刻な被害をもたらすことがあり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	<p>食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てている。</p> <p>食品と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p>	生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
2 3	安全 な 社会 生活	<ul style="list-style-type: none"> ・保健制度とその活用 ・医療制度とその活用 ・医薬品の制度とその活用 ・様々な保健活動や対策 ・誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境作り 	我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
保健体育 ・ 体育	普通科 工業科 商業科 3年男子	2	現代高等保健体育改訂版 (大修館書店)	Active Sports 2022 (大修館書店)
科目の概要 と目標	運動についての科学的な理解を深め、運動の合理的な実践ができる。 運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる 技能の習得を通して互いに相手を尊重する礼儀作法を身に付けることができる。			
学期	単元	学習内容	到達度目標	
1	体育理論 体づくり運動 陸上競技 球技	生涯スポーツの見方・ 考え方、 ライフスタイルに応じ たスポーツ 体力トレーニングの方 法と内容 体力を高める運動 長距離走 ソフトボール バスケットボール サッカー バレーボール テニス	スポーツの役割の変化や重要性について理解 させる。 スポーツを生活の中に上手く位置づける方法 について理解させる。 体力測定の意義及び体力の向上を図る運動を 理解させる。 記録向上の喜びや競走の楽しさを味わう事がで きる。 集団的技能、個人的技能を身に付ける事がで きる。 学習段階に応じた作戦を立て、ゲームができ る。	
2	体育理論 体づくり運動 球技	日本のスポーツ振興 スポーツと環境 体力を高める運動 バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球	スポーツ振興のために行われている条件整備に ついて理解し、スポーツと環境の調和について どのようにしていけば良いかを考えさせる。 個人的技能を身に付ける事ができる。 学習段階に応じた作戦を立て、ゲームができ る。 勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わ う事ができる。	
3	体育理論 体づくり運動 球技	日本のスポーツ振興 体ほぐしの運動 バスケットボール バドミントン 卓球	スポーツ振興のための施策と諸条件について 理解したことを言うことができる。 基本動作や対人的技能を身に付け、練習や試 合ができる。 生涯スポーツにつながるような、企画・実践 ・ふり返りが自分でできる。	

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
保健体育 ・ 体育	普通科 体育コース 3年男子	2	現代高等保健体育改訂版 (大修館書店)	Active Sports 2022 (大修館書店)
科目の概要 と目標	運動についての科学的な理解を深め、運動の合理的な実践ができる。 運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる 技能の習得を通して互いに相手を尊重する礼儀作法を身に付けることができる。			
学期	単元	学習内容	到達度目標	
1	体育理論 体づくり運動 陸上競技 球技	生涯スポーツの見方・ 考え方、 ライフスタイルに応じ たスポーツ 体力トレーニングの方 法と内容 体力を高める運動 長距離走 ソフトボール バスケットボール サッカー バレーボール テニス	スポーツの役割の変化や重要性について理解 させる。 スポーツを生活の中に上手く位置づける方法 について理解させる。 体力測定の意義及び体力の向上を図る運動を 理解させる。 記録向上の喜びや競走の楽しさを味わう事がで きる。 集団的技能、個人的技能を身に付ける事がで きる。 学習段階に応じた作戦を立て、ゲームができ る。	
2	体育理論 体づくり運動 球技	日本のスポーツ振興 スポーツと環境 体力を高める運動 バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球	スポーツ振興のために行われている条件整備に ついて理解し、スポーツと環境の調和について どのようにしていけば良いかを考えさせる。 個人的技能を身に付ける事ができる。 学習段階に応じた作戦を立て、ゲームができ る。 勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わ う事ができる。	
3	体育理論 体づくり運動 球技	日本のスポーツ振興 体ほぐしの運動 バスケットボール バドミントン 卓球	スポーツ振興のための施策と諸条件について 理解したことを言うことができる。 基本動作や対人的技能を身に付け、練習や試 合ができる。 生涯スポーツにつながるような、企画・実践 ・ふり返りが自分でできる。	

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
保健体育 ・ 体育	普通科 工業科 商業科 3年女子	2	現代高等保健体育改訂版 (大修館書店)	Active Sports 2022 (大修館書店)
科目の概要 と目標	運動についての科学的な理解を深め、運動の合理的な実践ができる。 運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる 技能の習得を通して互いに相手を尊重する礼儀作法を身に付けることができる。			
学期	単元	学習内容	到達度目標	
1	体育理論 体づくり運動 陸上競技 球技	生涯スポーツの見方・ 考え方、 ライフスタイルに応じ たスポーツ 体力トレーニングの方 法と内容 体力を高める運動 長距離走 ソフトボール バスケットボール サッカー バレーボール テニス	スポーツの役割の変化や重要性について理解 させる。 スポーツを生活の中に上手く位置づける方法 について理解させる。 体力測定の意義及び体力の向上を図る運動を 理解させる。 記録向上の喜びや競走の楽しさを味わう事がで きる。 集団的技能、個人的技能を身に付ける事がで きる。 学習段階に応じた作戦を立て、ゲームができ る。	
2	体育理論 体づくり運動 球技	日本のスポーツ振興 スポーツと環境 体力を高める運動 バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球	スポーツ振興のために行われている条件整備に ついて理解し、スポーツと環境の調和について どのようにしていけば良いかを考えさせる。 個人的技能を身に付ける事ができる。 学習段階に応じた作戦を立て、ゲームができ る。 勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わ う事ができる。	
3	体育理論 体づくり運動 球技	日本のスポーツ振興 体ほぐしの運動 バスケットボール バドミントン 卓球	スポーツ振興のための施策と諸条件について 理解したことを言うことができる。 基本動作や対人的技能を身に付け、練習や試 合ができる。 生涯スポーツにつながるような、企画・実践 ・ふり返りが自分でできる。	

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
保健体育 ・ 体育	普通科 体育コース 3年女子	3	現代高等保健体育改訂版 (大修館書店)	Active Sports 2022 (大修館書店)
科目の概要 と目標	運動についての科学的な理解を深め、運動の合理的な実践ができる。 運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる 技能の習得を通して互いに相手を尊重する礼儀作法を身に付けることができる。			
学期	単元	学習内容	到達度目標	
1	体育理論 体づくり運動 陸上競技 球技	生涯スポーツの見方・ 考え方、 ライフスタイルに応じ たスポーツ 体力トレーニングの方 法と内容 体力を高める運動 長距離走 ソフトボール バスケットボール サッカー バレーボール テニス	スポーツの役割の変化や重要性について理解 させる。 スポーツを生活の中に上手く位置づける方法 について理解させる。 体力測定の意義及び体力の向上を図る運動を 理解させる。 記録向上の喜びや競走の楽しさを味わう事がで きる。 集団的技能、個人的技能を身に付ける事がで きる。 学習段階に応じた作戦を立て、ゲームができ る。	
2	体育理論 体づくり運動 球技	日本のスポーツ振興 スポーツと環境 体力を高める運動 バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球	スポーツ振興のために行われている条件整備に ついて理解し、スポーツと環境の調和について どのようにしていけば良いかを考えさせる。 個人的技能を身に付ける事ができる。 学習段階に応じた作戦を立て、ゲームができ る。 勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わ う事ができる。	
3	体育理論 体づくり運動 球技	日本のスポーツ振興 体ほぐしの運動 バスケットボール バドミントン 卓球	スポーツ振興のための施策と諸条件について 理解したことを言うことができる。 基本動作や対人的技能を身に付け、練習や試 合ができる。 生涯スポーツにつながるような、企画・実践 ・ふり返りが自分でできる。	

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
芸術・音楽 I		普通科(体育コース) 工業科・商業科 1学年	2	MOUSA I (教育芸術社)	Music Navigation (音楽史・楽典・ノート)
科目の概要と目標		音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。			
月	単元	学習内容	評価方法		
			知識技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 5 6 7	正しい発声を身に付けよう	・歌唱 校歌、「翼をください」「オー・シャンゼリゼ」他	<ul style="list-style-type: none"> ・曲にふさわしい発声、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表現することができる。 ・曲に合わせて正確なリズムでコップや机を打ったり、他者との調和を意識して演奏したりする技能を身に付け、器楽で表現することができる。 ・音符や休符の名称や長さ、日本語やドイツ語による音名、拍子などについて理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の雰囲気合った音色、強弱を知覚・感受し、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 ・曲に合う音色、リズム、強弱などを知覚・感受しながら、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 ・音色、リズム、速度、強弱などを知覚・感受しながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 ・コップや手拍子を用いて、どのようなリズムを作るかについて表現意図をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで意見を出し合ったり、振り返りをしたりしながら、主体的・協働的に器楽の活動に取り組むことができる。 ・曲想や表現上の効果、音楽の特徴に関心を持ち、主体的に鑑賞の学習活動に取り組むことができる。
	リズムアンサンブルに挑戦しよう	・拍子の理解 ・コップ、手拍子を使ったアンサンブル演奏「Clap, Tap with CUPS!」 ・簡単なリズム創作			
	西洋音楽を聴こう	・鑑賞 組曲「動物の謝肉祭」、交響曲第9番<合唱付き>			
	楽譜の仕組み(1)	・音符や休符の名称や長さの理解 ・日本語やドイツ語による音名の理解			
9 10 11 12	ヨーロッパの歌曲を歌おう	・イタリア歌曲の歌唱「Caro mio ben」 ・ドイツ歌曲の歌唱「野ばら」(シューベルト、ヴェルナー)	<ul style="list-style-type: none"> ・曲にふさわしい発声、言葉の発音などの技能を身に付け、歌唱で表現することができる。 ・ギターの基本的な奏法を身に付け、簡単な旋律やコードをギターで演奏することができる。 ・2つの音の音程や三和音、奏法上の記号などについて理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の雰囲気合った音色、速度、強弱を知覚・感受し、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 ・ギターの音色、旋律、テクスチュアなどを知覚・感受しながら、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 ・音色、リズム、速度、強弱などを知覚・感受しながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術の特徴や文化的・歴史的背景との関わりに関心を持ち、主体的に鑑賞の学習活動に取り組むことができる。 ・ギターの音色や奏法との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に器楽の活動に取り組むことができる。
	ギターを演奏しよう	・ギターの演奏「きらきら星」、「歓喜の歌」、「大きな古時計」、「日曜日よりの使者」他			
	舞台芸術に親しもう	・オペラの鑑賞「カルメン」 ・ミュージカルの鑑賞「キャッツ」			
	楽譜の仕組み(2)	・音程の理解 ・和音(三和音)の理解 ・奏法上の記号の理解			
1 2 3	日本歌曲を歌おう	・日本歌曲の歌唱「この道」「むこうむこう」	<ul style="list-style-type: none"> ・曲にふさわしい言葉の発音、強弱の変化などの技能を身に付け、歌唱で表現することができる。 ・箏の様々な奏法を用いて創作した変奏曲を、箏で演奏することができる。 ・これまで学習した楽典の知識を生かして、問題を解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の雰囲気合った音色、速度、旋律、強弱を知覚・感受し、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 ・箏の音色、速度、形式などを知覚・感受しながら、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 ・音色、速度、強弱などを知覚・感受しながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 ・箏の様々な奏法を用いて、どのような変奏曲を作るかについて表現意図をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な奏法を用いて弾いた箏の音色や響きに関心を持ち、主体的・協働的に創作の活動に取り組むことができる。 ・世界の諸民族の音楽の特徴や文化的・歴史的背景、音楽表現の共通性や固有性に関心を持ち、主体的に鑑賞の学習活動に取り組むことができる。
	和楽器に親しもう	・箏の演奏「さくら変奏曲」「六段の調べ」 ・創作「さくらさくら変奏曲を作ろう」			
	世界の諸民族の音楽を知ろう	・世界の諸民族の音楽の鑑賞「ニッケルハルパ」「ステイールパン」他			

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
芸術・美術 I		普通科・工業科・商業科 1学年	2	高校生の美術 1 ＜日本文教出版株式会社＞	
科目の概要と目標		美術に関する専門的な学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美術体験を豊かにし、美術や美術文化と創造的に関わる資質・能力を育成することを目指す。			
月	単元	学習内容	評価方法		
			知識技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	オリエンテーション 【美術とは何か】 ○鑑賞	○今までを振り返り、高校の美術 I のイメージを持ち、美術の学びの意味や広がりについて考える。	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	・美術や美術文化と豊かに関り主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
5 6 7	絵画（油彩画） 【静物】 ○表現 ○鑑賞	○自分でモチーフを選び、構図を検討し、自分らしさを表現する。 ○油絵の具の使い方を理解し、モチーフの特徴や美しさなどを基に、形や色彩、質感などの効果を考え、構想を練り表現する。 ○友達のを作品を鑑賞する。	・形や色彩、明暗、質感など造形的な特徴を捉え、意図に応じて絵の具などの特性を生かし、表現方法を創意工夫している。	・モチーフの特徴や美しさなどを観察し、感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し、表現形式の特性を生かし、形や色彩、質感などを考え、創造的な構想を練っている。	・モチーフの特徴や美しさなどを観察し、感じ取ったことや考えたことを基にした表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表したいものの特徴や美しさなどについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。
9 10 11 12	デザイン 【オリジナル時計】 ○表現 ○鑑賞	○時計の機能や、使用される場所や目的との関係、文字の形や色、構成などの効果、伝えたい情報やイメージを捉え表現する。 ○友達のを作品を鑑賞する。	・形体や色彩などの性質及びそれらが人の感情にもたらす効果や、文字やイラストの配置または画材の工夫など造形的な特徴を基に、全体のイメージを捉えることを理解している。 ・意図に応じて画材などの特性や効果を生かすとともに、表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表現している。	・感じ取ったことや考えたことを基に、時計のデザインの美しさやおもしろさ、伝えたい内容を表すための工夫を考えて主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、伝えるための創造的な表現の工夫を捉えるなどして見方や感じ方を深めている。	・画材や表現方法などを工夫して表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。 ・時計のデザインによる表現の特性や作者の意図と工夫との関連を感じ取り、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。
1 2 3	絵画（色鉛筆画） 【身近なものを描く】 ○表現 ○鑑賞	○モチーフをしっかりと観察して、形態と色などの特徴を捉えて、大切にしている気持ちを表すための構想を練りながら、表現方法を工夫して描く。 ○友達のを作品を鑑賞する。	・形や色彩、明暗、質感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、モチーフの特徴や美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解している。 ・意図に応じて色鉛筆の特性を生かすとともに、線の強弱など表現方法を創意工夫している。	・身近なものの特徴や美しさなどを観察し、感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し、形や色彩、質感などを考え、創造的な構想を練っている。 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や考え方を深めている。	・身近なものの特徴や美しさなどを観察し、感じ取ったことや考えたことを基にした表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表したい身近なものの特徴や美しさなどについて考える。

教科・科目		対象学科・学年		単位数	教科書	使用教材
芸術・書道Ⅰ		普通科、工業科、商業科 1学年		2	書道Ⅰ(東京書籍)	
科目の概要 と目標		書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を養う。				
月	単元	学習内容	評価方法			
			知識 技能	思考・判断・ 表現	主体的に学習に取 り組む態度	
4	書へのい ざない	・書道の学習概要 ・書写から書道へ	書道の三分野と、臨書・鑑賞・創 作の学習方法を理解する。	小・中学校国語科 書写と高等学校芸 術科書道の学習の 違いを確認する。	芸術科書道への関心・意 欲を高め、書に対する感 性を豊かにし、書を愛好 する心情を養う。	
4 5	漢字の書	・漢字の変遷とさま ざまな書体 ・楷書 楷書の古典	楷書の書体や書風と用筆・運筆と の関わりについて理解し、基本的 な用筆・運筆の技法、線質、字形 や構成を生かした表現を身につ ける。	楷書の古典の書体 や書風に即した用 筆・運筆、字形、全 体の構成について 構想し工夫する。	幅広い表現と鑑賞の学 習活動に主体的に取り 組み、書に対する感性を 豊かにし、書を愛好する 心情を養う。	
6		・行書 行書の古典 ・草書 草書の古典 ・隸書 隸書の古典 ・篆書 篆書の古典	行書の古典の書体や書風と用筆・ 運筆との関わりについて理解し、 基本的な用筆・運筆の技法、線質、 字形や構成を生かした表現を身 につける。	行書の古典の書体 や書風に即した用 筆・運筆、字形、全 体の構成について 構想し工夫する。	幅広い表現と鑑賞の学 習活動に主体的に取り 組み、書に対する感性を 豊かにし、書を愛好する 心情を養う。	
7		・篆刻	印と篆刻について知り、用具・用 材の用途を理解して、姓名印の刻 し方を身につける。	篆刻の価値とその 根拠について考 え、篆刻のよさや 美しさを味わっ て捉える。	幅広い表現と鑑賞の学 習活動に主体的に取り 組み、書に対する感性を 豊かにし、書を愛好する 心情を養う。	
9 10		・古典を生かした創 作作品	漢字の古典に基づく基本的な用 筆・運筆の技能、古典の線質、字 形や構成を生かした表現の技能 を身につける。	漢字の古典の書体 や書風に即した用 筆・運筆、字形、全 体の構成について 構想し工夫する。	幅広い表現と鑑賞の学 習活動に主体的に取り 組み、書に対する感性を 豊かにし、書を愛好する 心情を養う。	
11 12	仮名の書	・仮名の成立と種類 ・古筆に見る仮名の 表現方法 仮名の古筆	日本の文字と書の伝統と文化、仮 名の成立、書の伝統的な鑑賞の方 法や携帯について理解する。 仮名の古筆に基づく基本的な用 筆・運筆の技能、連綿と単体、線 質、字形や構成を生かした表現を するための技能を身につける。	仮名の古筆や書風 に即した用筆・運 筆、字形、全体の構 成について構想し 工夫する。	幅広い表現と鑑賞の学 習活動に主体的に取り 組み、書に対する感性を 豊かにし、書を愛好する 心情を養う。	
1 2	漢字仮名 交じりの 書	・創作作品	漢字と仮名の調和した字形、文字 の大きさ、全体の構成などの目的 や用途に即した効果的な表現、漢 字と仮名の調和した線質による 表現の技能を身につける。	目的や用途に即し た表現形式、意図 に基づいた表現に ついて構想し工夫 する。	幅広い表現と鑑賞の学 習活動に主体的に取り 組み、書に対する感性を 豊かにし、書を愛好する 心情を養う。	
3	生活の書	・書を暮らしに生か す	書活動を通し、暮らしに生かせる 実用書を理解する。	生活や社会におけ る書の効用につい て考え、書のよさ や美しさを味わっ て捉える。	幅広い表現と鑑賞の学 習活動に主体的に取り 組み、書に対する感性を 豊かにし、書を愛好する 心情を養う。	

教科・科目	対象学 科 ・学年	単 位 数	教 科 書	使 用 教 材
英語 英語コミュニ ケーションI	普通科 1年	3	LANDMARK English Communication I	LANDMARK English Communication I WORKBOOK, 自作プリント
科目の概要 と目標	英文を書いたり、話したりすることを通じて、断片的に自分の考えを表現することができる。 理解が難しい箇所を、文脈や背景知識を活用し、推測しながら読むことができる。 ある程度の量のある英文を用い、英語を理解しながら、自分の考えをある程度伝えられるようになる。			

課		単元・題材	学習内容	学習指導要領との対照			
				(1) 知識及び技能	思考力・判断力・表現力		
					(2) 思考・判断 ・表現	(3)言語活動及び言語の働き	
						① 言語活動	②言語の働き
1	1	Enjoy Your Journey!	新たな生活での目標の見つけ方	アイウエ	アイウ	アイウエオカ	場面：(ア)(イ)(ウ) 働き： (ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)
	2	Curry Travels around the World	はるかなるカレーの旅	アイウエ	アイウ	アイウエオカ	場面：(ア)(イ)(ウ) 働き： (ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)
	3	School Uniforms	世界の制服事情	アイウエ	アイウ	アイウエオカ	場面：(ア)(イ)(ウ) 働き： (ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)
	4	Eco-Tour on Yakushima	屋久島エコツアーを体験	アイウエ	アイウ	アイウエオカ	場面：(ア)(イ)(ウ) 働き： (ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)
	5	Bailey the Facility Dog	病院で働くファシリティードッグについて	アイウエ	アイウ	アイウエオカ	場面：(ア)(イ)(ウ) 働き： (ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)
1 ・ 2	6	Communication without Words	世界の国々の言葉を用いないコミュニケーション	アイウエ	アイウ	アイウエオカ	場面：(ア)(イ)(ウ) 働き： (ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)
2	7	Dear World: Bana's War	バナが世界に向けて発信したメッセージとは	アイウエ	アイウ	アウ	場面：(ア)(イ)(ウ) 働き： (ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)
	8	The Best Education to Everyone, Everywhere	社会起業家の思いと挑戦	アイウエ	アイウ	アイウエオカ	場面：(ア)(イ)(ウ) 働き： (ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)
3	9	Space Elevator	エレベーターで宇宙へ?	アイウエ	アイウ	アイウエオカ	場面：(ア)(イ)(ウ) 働き： (ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)
	10	Friendship over Time	トルコ軍艦エルトゥールル号の恩返し	アイウエ	アイウ	アイウエオカ	場面：(ア)(イ)(ウ) 働き： (ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)

注:学習指導要領との対照

[知識及び技能]

(1)英語の特徴やきまりに関する事項

- ア 音声
- イ 句読法
- ウ 語, 連語及び慣用表現
- エ 文構造及び文法事項

[思考力・判断力・表現力等]

(2)情報を整理しながら考えなどを形成し, 英語で表現したり, 伝え合ったりすることに関する事項

- ア 日常的话题や社会的な話題について, 英語を聞いたり読んだりして, 情報や考えなどの概要や要点, 詳細, 話し手や書き手の意図などを的確に捉えたり, 自分自身の考えをまとめたりすること。
- イ 日常的话题や社会的な話題について, 英語を聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら, 話したり書いたりして情報や自分自身の考えなどを適切に表現すること。
- ウ 日常的话题や社会的な話題について, 伝える内容を整理し, 英語で話したり書いたりして, 要点や意図などを明確にしながら, 情報や自分自身の考えなどを伝え合うこと。

(3)言語活動及び言語の働きに関する事項

①言語活動に関する事項

- ア 中学校学習指導要領第2章第9節の第2の2の(3)の①に示す言語活動のうち, 中学校における学習内容の定着を図るために必要なもの。
- イ 聞くこと
- ウ 読むこと
- エ 話すこと[やり取り]
- オ 話すこと[発表]
- カ 書くこと

②言語の働きに関する事項

- ア 言語の使用場面
 - (ア) 生徒の暮らしに関わる場面
 - (イ) 多様な手段を通して情報などを得る場面
 - (ウ) 特有の表現がよく使われる場面
- イ 言語の働き
 - (ア) コミュニケーションを円滑にする
 - (イ) 気持ちを伝える
 - (ウ) 事実・情報を伝える
 - (エ) 考えや意図を伝える
 - (オ) 相手の行動を促す

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材	
外国語 英語コミュニケーションI	工業科・商業科 1年	3	Landmark Fit English Communication I	Landmark Fit English Communication I サブノート 自作プリント	
科目の概要と目標	<p>文型の基本や、基礎的な文法事項を理解し、言語活動で利用できる。 英文を書いたり、話したりすることを通じて、断片的に自分の考えを表現することができる。 理解が難しい箇所を、文脈や背景知識を活用し、推測しながら読むことができる。 ある程度の量のある英文を用い、英語を理解しながら、自分の考えをある程度伝えられるようになる。</p>				
学期	単元	学習内容	評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	Lesson1 Enjoy Your Journey!	新生活での新たな目標の 見つけ方	アイウエ	アイウ	場面：(7)(1)(9) 働き：(7)(1)(9)(1)(3)
	Lesson2 Curry Travels around the World	はるかなるカレーの旅	アイウエ	アイウ	場面：(7)(1)(9) 働き：(7)(1)(9)(1)(3)
	Lesson3 School Uniforms	世界の制服事情	アイウエ	アイウ	場面：(7)(1)(9) 働き：(7)(1)(9)(1)(3)
	SDGs 01	世界の真実 QUIZ	アイウエ	アイウ	アエオ
2	Lesson4 Eco-Tour on Yakushima	屋久島エコツアーを体験	アイウエ	アイウ	場面：(7)(1)(9) 働き：(7)(1)(9)(1)(3)
	Lesson5 Bailey the Facility Dog	病院で働くファシリティ ドッグ、ベイリーについて	アイウエ	アイウ	場面：(7)(1)(9) 働き：(7)(1)(9)(1)(3)
	Lesson6 Communication without Words	世界の国々の言葉を用い ないコミュニケーション	アイウエ	アイウ	場面：(7)(1)(9) 働き：(7)(1)(9)(1)(3)
	Supplementary Lesson	パラグラフを書いてみよ う！	アイウエ	アイウ	場面：(7) 働き：(7)(1)(9)(1)(3)
3	SDGs 02	SDGs Goals to Achieve	アイウエ	アイウ	場面：(7) 働き：(7)(1)(9)(1)(3)
	Lesson7 Dear World: Bana's War	バナが世界に向けて発信 したメッセージとは	アイウエ	アイウ	アウ
	Lesson8 The Best Education to Everyone, Everywhere	社会起業家の思いと挑戦	アイウエ	アイウ	場面：(7)(1)(9) 働き：(7)(1)(9)(1)(3)

注：学習指導要領との対照

[知識及び技能]

(1)英語の特徴やきまりに関する事項

- ア 音声
- イ 句読法
- ウ 語，連語及び慣用表現
- エ 文構造及び文法事項

[思考力・判断力・表現力等]

(2)情報を整理しながら考えなどを形成し，英語で表現したり，伝え合ったりすることに関する事項

- ア 日常的な話題や社会的な話題について，英語を聞いたり読んだりして，情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に捉えたり，自分自身の考えをまとめたりすること。
- イ 日常的な話題や社会的な話題について，英語を聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら，話したり書いたりして情報や自分自身の考えなどを適切に表現すること。
- ウ 日常的な話題や社会的な話題について，伝える内容を整理し，英語で話したり書いたりして，要点や意図などを明確にしながら，情報や自分自身の考えなどを伝え合うこと。

(3)言語活動及び言語の働きに関する事項

①言語活動に関する事項

ア 中学校学習指導要領第2章第9節の第2の2の(3)の①に示す言語活動のうち，中学校における学習内容の定着を図るために必要なもの。

- イ 聞くこと
- ウ 読むこと
- エ 話すこと[やり取り]
- オ 話すこと[発表]
- カ 書くこと

②言語の働きに関する事項

ア 言語の使用場面

- (ア) 生徒の暮らしに関わる場面
- (イ) 多様な手段を通して情報などを得る場面
- (ウ) 特有の表現がよく使われる場面

イ 言語の働き

- (ア) コミュニケーションを円滑にする
- (イ) 気持ちを伝える
- (ウ) 事実・情報を伝える
- (エ) 考えや意図を伝える
- (オ) 相手の行動を促す

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材	
外国語 英語コミュニケーション I	普通科体育 コース 1年	3	Landmark Fit English Communication I	Landmark Fit English Communication I サブノート 自作プリント	
科目の概要 と目標	<p>文型の基本や、基礎的な文法事項を理解し、言語活動で利用できる。 英文を書いたり、話したりすることを通じて、断片的に自分の考えを表現することができる。 理解が難しい箇所を、文脈や背景知識を活用し、推測しながら読むことができる。 ある程度の量のある英文を用い、英語を理解しながら、自分の考えをある程度伝えられるようになる。</p>				
学期	単元	学習内容	評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	Lesson1 Enjoy Your Journey!	新生活での新たな目標の 見つけ方	アイウエ	アイウ	場面：(7)(1)(9) 働き：(7)(1)(9)(10)(11)
	Lesson2 Curry Travels around the World	はるかなるカレーの旅	アイウエ	アイウ	場面：(7)(1)(9) 働き：(7)(1)(9)(10)(11)
	Lesson3 School Uniforms	世界の制服事情	アイウエ	アイウ	場面：(7)(1)(9) 働き：(7)(1)(9)(10)(11)
	SDGs 01	世界の真実 QUIZ	アイウエ	アイウ	アエオ
2	Lesson4 Eco-Tour on Yakushima	屋久島エコツアーを体験	アイウエ	アイウ	場面：(7)(1)(9) 働き：(7)(1)(9)(10)(11)
	Lesson5 Bailey the Facility Dog	病院で働くファシリティ ドッグ、ベイリーについて	アイウエ	アイウ	場面：(7)(1)(9) 働き：(7)(1)(9)(10)(11)
	Lesson6 Communication without Words	世界の国々の言葉を用い ないコミュニケーション	アイウエ	アイウ	場面：(7)(1)(9) 働き：(7)(1)(9)(10)(11)
	Supplementary Lesson	パラグラフを書いてみよ う！	アイウエ	アイウ	場面：(7) 働き：(7)(1)(9)(10)(11)
3	SDGs 02	SDGs Goals to Achieve	アイウエ	アイウ	場面：(7) 働き：(7)(1)(9)(10)(11)
	Lesson7 Dear World: Bana's War	バナが世界に向けて発信 したメッセージとは	アイウエ	アイウ	アウ
	Lesson8 The Best Education to Everyone, Everywhere	社会起業家の思いと挑戦	アイウエ	アイウ	場面：(7)(1)(9) 働き：(7)(1)(9)(10)(11)

注：学習指導要領との対照

[知識及び技能]

(1)英語の特徴やきまりに関する事項

- ア 音声
- イ 句読法
- ウ 語，連語及び慣用表現
- エ 文構造及び文法事項

[思考力・判断力・表現力等]

(2)情報を整理しながら考えなどを形成し，英語で表現したり，伝え合ったりすることに関する事項

- ア 日常的な話題や社会的な話題について，英語を聞いたり読んだりして，情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に捉えたり，自分自身の考えをまとめたりすること。
- イ 日常的な話題や社会的な話題について，英語を聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら，話したり書いたりして情報や自分自身の考えなどを適切に表現すること。
- ウ 日常的な話題や社会的な話題について，伝える内容を整理し，英語で話したり書いたりして，要点や意図などを明確にしながら，情報や自分自身の考えなどを伝え合うこと。

(3)言語活動及び言語の働きに関する事項

①言語活動に関する事項

ア 中学校学習指導要領第2章第9節の第2の2の(3)の①に示す言語活動のうち，中学校における学習内容の定着を図るために必要なもの。

- イ 聞くこと
- ウ 読むこと
- エ 話すこと[やり取り]
- オ 話すこと[発表]
- カ 書くこと

②言語の働きに関する事項

ア 言語の使用場面

- (ア) 生徒の暮らしに関わる場面
- (イ) 多様な手段を通して情報などを得る場面
- (ウ) 特有の表現がよく使われる場面

イ 言語の働き

- (ア) コミュニケーションを円滑にする
- (イ) 気持ちを伝える
- (ウ) 事実・情報を伝える
- (エ) 考えや意図を伝える
- (オ) 相手の行動を促す

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材		
家庭 家庭基礎	1年普・2年工・2年商	2	家庭基礎(東京書籍)自立・共生・創造	2024最新生活ハンドブック(第一学習社) 家庭基礎学習ノート		
科目の概要と目標	家族や生活の営みを人々の一生とかわりの中でとらえ、家族や家庭生活の在り方、子どもと高齢者の生活と福祉、生活の自立と健康のための衣食住、消費者生活と環境などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活の充実に向上を図る能力と実践的な態度を育てることを目標とする。					
学期	単元	学習内容	知識・技能	評価方法	主体的に学習に取り組む態度	
1	第6章 食生活をつくる	1食生活の課題について考える	・ライフステージに応じた栄養の特徴について理解している。	・食品の調理上の性質について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。	
		2食事と栄養・食品	・食品の栄養的特質について理解している。 ・食品の調理上の性質について理解している。	・食品の調理上の性質について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		
		3食生活の選択と安全	・健康や環境に配慮した食生活について理解している。 ・食品衛生について理解している。	・食の安全について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		
		4生涯の健康を見通した食事計画	・ライフステージに応じた栄養の特徴について理解している。 ・自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。			
		5調理の基礎	・おいしさの構成要素について理解している。 ・目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。			
		6食生活の文化と知恵		・食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		
		7これからの食生活		・健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		
	第8章 住生活をつくる	1住生活の変遷と住居の機能	・ライフステージに応じた住生活の特徴について理解している。	・住居の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。	
		2安全で快適な住生活の計画	・防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解している。 ・適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けている。			
		3住生活の文化と知恵		・住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		
		4これからの住生活		・住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		
	第2章 人生をつくる	1人生をつくる	・生涯発達の視点で青年期の課題を理解している。			
		2家族・家庭を見つめる	・家族・家庭の機能と家族関係について理解を深めている。	・男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。	
		3これからの家庭生活と社会	・家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めている。 ・家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めている。	・家庭や地域によりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		
	ホームプロジェクト計画	・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解している。	・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の問題について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。		
	ホームプロジェクト発表					
	2	第7章 衣生活をつくる	被服実習 手縫い、ボタン付けの練習 トートバックの作成	簡単手縫いボタン付け、ミシンの基礎縫いができる。		
			1被服の役割を考える	・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着法について理解している。	・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。
2被服を入手する			・被服材料について理解している。 ・被服構成について理解している。 ・被服衛生について理解している。			
3被服を管理する			・被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている。			
4衣生活の文化と知恵				・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		
5これからの衣生活		・健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。	・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。			
第9章 経済生活を営む		1情報の収集・比較と意思決定	・消費者の権利と責任を自覚して行動できる消費行動における意思決定について理解している。 ・生活情報を適切に収集・整理できる。	・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫・創造し、実践しようとしている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫・創造し、実践しようとしている。	
		2購入・支払いのルールと方法	・消費者の権利と責任を自覚して行動できる消費者保護の仕組みについて理解している。			
		3消費者の権利と責任	・消費者の権利と責任を自覚して行動できる消費生活の現状と課題について理解している。	・責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		
		4生涯の経済生活を見通す	・家計の構造について理解している。 ・家計管理について理解している。	・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		
	5これからの経済生活	・生活における経済と社会との関わりについて理解している。	・責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。			
第1章 生涯を見通す	1人生を展望する	・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。	・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。		
	2目標を持って生きる	・自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。	・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。			
第10章 持続可能な生活を営む	1持続可能な社会を目指して	・生活と環境との関わりについて理解している。 ・持続可能な消費について理解している。 ・持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。	・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。		
	2生活デザイン	・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。 ・自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。	・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。		
3	第3章 子どもと共に育つ	1命を育む	・生涯発達の視点で青年期の課題を理解している。			
		2子どもの育つ力を知る	・乳幼児期の心身の発達と生活について理解している。			
		3子どもと関わる	・親の役割と保育について理解している。	・子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		
		4子どもとの触れ合いから学ぶ	・乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けている。			
		5これからの保育環境	・子供を取り巻く社会環境について理解している。 ・子育て支援について理解している。	・子供の健やかな発達のために地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		
	第4章 超高齢社会を共に生きる	1超高齢・大衆長寿社会の到来	・高齢者を取り巻く社会環境について理解している。			
		2高齢者の心身の特徴	・高齢期の心身の特徴について理解している。			
		3これからの超高齢社会	・高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解している。 ・生活支援に関する基礎的な技能を身に付けている。	・高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢期の生活と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。	
	第5章 共に生き、共に支える	1私たちの生活と福祉	・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。			
		2社会保障の考え	・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。			
3共に生きる (学校家庭クラブ活動)			・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。		

備考 1クラス2編成で行い、1学期と2学期で分野を交代する。

教科・科目	対象学科 ・学年	単 位 数	教 科 書	使 用 教 材	
情報・ 情報 I	普通科 ・2年	2	最新情報 I (実教出版)	最新情報 I 学習ノート(実教出版)	
科目の概要 と目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育てる。				
月	単 元	学 習 内 容	評 価 方 法		
			知識 技能	思考・判断 ・表現	主体的に学習に 取り組む態度
4 5 6 7	2章 メディアと デザイン 1章 情報社会と 私たち 3章 システムと デジタル化	<ul style="list-style-type: none"> 情報デザイン 文書作成の手順 プレゼンテーションの手順とスライド作成 メディアの種類と特性 情報社会の現状、情報の特性 知的財産権 個人情報とプライバシー コンピュータの構成と動作の仕組み デジタル化とデジタル表現 	<ul style="list-style-type: none"> 社会の中で利用されている情報デザインについて理解している 情報社会と人間との関わりについて考え、理解している。 知的財産権について理解している。 コンピュータの構成や動作の仕組みについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報を正確にわかりやすく伝える方法を理解している。 情報の特性を活用した事例を挙げることができる。 個人情報やプライバシーを扱う際の注意点を挙げることができる。 情報量を適切な単位で表現したり、変換したりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報をわかりやすく伝達するために工夫して表現している。 情報化が個人に及ぼす影響について考えている。 知的財産権を適切に活用しようとしている。 コンピュータによる演算や数値計算の仕組み、データ量の計算に関心を持って取り組んでいる。
9 10 11 12	4章 ネットワークとセキュリティ 5章 問題解決と その方法	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信ネットワークの構成 情報通信の取り決め Webページの仕組み 転送速度とデータ圧縮 情報セキュリティ 問題解決の手順と方法 データの収集と整理、分析 表計算 データベース モデル化とシミュレーション モンテカルロ法 	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークを効率的に利用するための取り決めについて理解している。 情報セキュリティを確保する方法と技術について理解している。 問題や問題解決の意味、問題解決の手順について理解している。 表計算ソフトの活用方法について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に沿って、LANを構成する情報機器の接続を適切に考えることができる。 情報セキュリティの確保に向けて、適切な判断、選択をすることができる。 問題の解決案を検討するために必要な情報を収集・整理し、検討のための適切な資料を作成できる。 問題解決の目的や条件にしたがって、表計算ソフトの関数を適切に適用してデータ処理を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットの仕組みやサービスに関心を持っている。 情報セキュリティを維持するための技術に関心を持っている。 試行錯誤しながら、粘り強く問題の発見・解決に取り組んでいる。 問題解決のため、表計算ソフト等を用いて収集した情報を処理したり、グラフで可視化したりすることに興味を持っている。
1 2 3	6章 アルゴリズムとプログラミング	<ul style="list-style-type: none"> プログラミングの方法 プログラミングの実践 	<ul style="list-style-type: none"> アルゴリズムとプログラムについて理解している。 変数や関数、配列を利用して簡単なプログラムを作成できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本制御構造を適切に用いて、簡単なアルゴリズムを表現できる。 プログラムを設計し、適切かつ効率的なプログラムを作成できる。 	<ul style="list-style-type: none"> プログラミング言語に興味を示し、自ら活用している。 アルゴリズムを考え、粘り強く試行錯誤しながらプログラムを作成している。

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
工業・工業技術基礎		くすり・バイオ科 1年	2	工業技術基礎 (実教出版)	工業技術基礎 (富山北部高校 工業科テキスト)
科目の概要と目標 <ul style="list-style-type: none"> ・実習で使う実習器具の名称や取り扱い方を学び、正しい操作法を身につける。 ・きまりや注意事項を守り、安全に気を配り、積極的に実習に取り組む姿勢を養う。 ・実習でよく使う試薬の性質を知り、安全に配慮しながら、正しく取り扱い実験できる。 ・顕微鏡を正しい操作法を身につけ、観察することができる。 ・定性分析の手順を学び、実験結果を正しく処理し、未知試料の成分を知ることができる。 					
月	単 元	学 習 内 容	評 価 方 法		
			知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 ・ 5	実習を行うにあたっての心構え レポートの書き方 ガラス器具の洗浄	<ul style="list-style-type: none"> ・実験を行うに当たり諸注意、安全指導 ・レポートの書き方 ・実験器具の名称 ・ガラス器具の洗い方 	<ul style="list-style-type: none"> ・身なりを整え、安全に実習に取り組むことができる。 ・ガラス器具の名称や正しい操作法を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラス器具の特徴や洗浄方法についてレポートにまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりや注意事項を守り、安全に気を配り、積極的に実習に取り組むことができる。 ・実験途中の記録や、期限内にレポートの提出ができる。
	ガスバーナーの使い方 攪拌棒の製作	<ul style="list-style-type: none"> ・ガスバーナーの構造と使用方法 ・ガラス棒の切断と加工 	<ul style="list-style-type: none"> ・火気の使用に際し、怪我や火災に注意することができる。 ・ガラス棒の切断と加工ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガスバーナーの構造についてレポートにまとめることができる。 	
6 ・ 7	スポンジの製作 ろ過	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラス管の切断と加工 ・ろ紙の折り方を紹介し、練習する。 ・四つ折りを使ったろ過を比較する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・火気の使用に際し、怪我や火災に注意することができる。 ・ガラス管の切断と加工ができる。 ・ろ紙の折り方、ろ過の仕方を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポンジの作成について、レポートにまとめることができる。 ・ろ過の原理・方法について、レポートにまとめることができる。 ・天秤・液量計の使い方について、レポートにまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりや注意事項を守り、安全に気を配り、積極的に実習に取り組むことができる。 ・実験途中の記録や、期限内にレポートの提出ができる。
	天秤の使い方 液量計の使い方	<ul style="list-style-type: none"> ・自動上皿天秤の使い方 ・液量計の種類と目盛りの読み方 	<ul style="list-style-type: none"> ・天秤のしくみを理解し、正しく質量を測定できる。 ・メニスカスを正しく読むことができる。 		
9 ・ 10	よく使用される酸・アルカリ	<ul style="list-style-type: none"> ・よく使用される酸・アルカリの性質を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・酸・アルカリを取り扱う際の注意点を身につけている。 ・酸・アルカリの性質について理解できる。 ・塩の加水分解について理解できる。 ・中和について理解できる。 ・中和点を見極めることができる。 ・中和滴定曲線を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・酸・アルカリの性質について、レポートにまとめることができる。 ・塩の加水分解について、レポートにまとめることができる。 ・中和について、レポートにまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりや注意事項を守り、安全に気を配り、積極的に実習に取り組むことができる。 ・実験途中の記録や、期限内にレポートの提出ができる。
	塩の加水分解 中和滴定曲線	<ul style="list-style-type: none"> ・塩から酸、塩基を遊離させる。 ・pHと指示薬の色の変化を観察する。 ・中和滴定曲線を作成させる。 			
11 ・ 12	顕微鏡 ミクロメーターの計算	<ul style="list-style-type: none"> ・顕微鏡の扱い方 ・ミクロメーターの使い方 ・タマネギの表皮細胞の大きさを測定し、計算する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・顕微鏡の使い方について理解できる。 ・ミクロメーターの使い方を理解できる。 ・ミクロメーターの使い方を習得し、計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・顕微鏡の使い方について、レポートにまとめることができる。 ・ミクロメーターの使い方について、レポートにまとめることができる。 ・タマネギの表皮細胞の大きさを測定し、レポートにまとめることができる。 ・微生物実験について、レポートにまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりや注意事項を守り、安全に気を配り、積極的に実習に取り組むことができる。 ・実験途中の記録や、期限内にレポートの提出ができる。
	微生物実験	<ul style="list-style-type: none"> ・一般細菌数試験 ・空中落下細菌数試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・微生物実験の特徴を理解できる。 ・滅菌法、培地作成、サンプリング方法を身に付けている。 		
1 ・ 2 ・ 3	試薬の調製 第一属イオンの分析	2学年になって使用する塩酸、酢酸、硫酸、酢酸、水酸化ナトリウム水溶液を調製する。 <ul style="list-style-type: none"> ・Ag^+、Pb^{2+}が含まれる混合試料溶液を分析する。 ・未知試料が何であるか、分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・決められた濃度、量の酸、アルカリ溶液を計算し、正しく調製することができる。 ・フローチャートを理解し、順序追って実習することができる。 ・第一属イオンの性質について理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・試薬の調製について、レポートにまとめることができる。 ・第一属イオンの分析について、レポートにまとめることができる。 ・未知試料が何であるか、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりや注意事項を守り、安全に気を配り、積極的に実習に取り組むことができる。 ・実験途中の記録や、期限内にレポートの提出ができる。

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
工業・工業情報数理		くすり・バイオ科 1年	2	工業情報数理 (実教出版)	全工パソコン利用技術検定試験演習問題集 (全工高等学校長協会)
科目の概要と目標		<p>ワードプロセッサWORDを用いて、ビジネス文章を作成できるようにする。 表計算ソフトEXCELを用いて、データ処理ができるようにする。 インターネットを活用できるようにする。 パワーポイントPOWER POINTを用いて、プレゼンテーションを行えるようにする。</p>			
月	単 元	学 習 内 容	評価方法		
			知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 ・ 5	ワープロ関連知識 OSの基本 パソコンの基礎①	<ul style="list-style-type: none"> ワープロソフトの構成やキーボード操作、文章のページ設定、ページレイアウトについて コンピュータのハードウェアの基本構成について ソフトウェアの分類やその種類と役割、OSの基本操作について WORDを用いた基本的、実用的な文章の作成 	<ul style="list-style-type: none"> OSの役割やソフトウェアについて理解することができる。 ビジネス文章の作成をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の課題を言葉で他者に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自主的に学習に取り組み、周りの人と互いに助け合うことができる。 授業内容について意欲的に実践しようとする。
6 ・ 7	パソコンの基礎② データの表し方	<ul style="list-style-type: none"> WORDを用いた表や図を挿入した文章の作成 データの演算と変換法 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス文章の作成をすることができる。 2進数、16進数について、演算と変換の仕方を理解することができる。 基本演算方法を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習した内容も含めて、自己の課題を言葉で他者に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自主的に学習に取り組み、周りの人と互いに助け合うことができる。 授業内容について意欲的に実践しようとする。
9 ・ 10	表計算ソフト① インターネット	<ul style="list-style-type: none"> EXCELを用いた簡単な集計表の作成、印刷、データベース機能について インターネットの仕組みや接続方法、その利用について 	<ul style="list-style-type: none"> 集計表を作成することができる。 インターネットの仕組みや接続方法、その利用について身に付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習した内容も含めて、自己の課題を言葉で他者に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自主的に学習に取り組み、周りの人と互いに助け合うことができる。 授業内容について意欲的に実践しようとする。
11 ・ 12	表計算ソフト②	<ul style="list-style-type: none"> EXCELを用いたグラフの作成、印刷 	<ul style="list-style-type: none"> グラフの作成をすることができる。 データベース機能を使うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習した内容も含めて、自己の課題を言葉で他者に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自主的に学習に取り組み、周りの人と互いに助け合うことができる。 授業内容について意欲的に実践しようとする。
1 ・ 2 ・ 3	プレゼンテーションソフト	<ul style="list-style-type: none"> POWER POINTによるスライドの作成 POWER POINTを用いたインパクトのあるプレゼンテーション発表 	<ul style="list-style-type: none"> POWER POINTによるスライドを作成することができる。 POWER POINTを用いて、インパクトのあるプレゼンテーション発表をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習した内容も含めて、自己の課題を言葉で他者に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自主的に学習に取り組み、周りの人と互いに助け合うことができる。 授業内容について意欲的に実践しようとする。

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材	
工業 課題研究	工業科 3年	3	なし	なし	
科目の概要と目標 身近な疑問に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決に向けて意欲的に取り組む能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。					
月	単 元	学 習 内 容	評 価 方 法		
			知識 技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	テーマ 計画 内容の検討	3～4人の編成班編成を行い、班ごとにテーマ、計画、内容を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> テーマ設定に必要な知識を理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマを設定するために現状の問題点や研究の展望を説明できる。 調べて理解した内容をレポートに分かりやすくまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマについて関心を持って、学習に取り組むことができる。 仲間と協力して取り組むことができる。 期限内にレポートを提出できる。
5	テーマ 計画 内容の検討	3～4人の編成班編成を行い、班ごとにテーマ、計画、内容を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> テーマ設定に必要な知識を理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマを設定するために現状の問題点や研究の展望を説明できる。 調べて理解した内容をレポートに分かりやすくまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマについて関心を持って、学習に取り組むことができる。 仲間と協力して取り組むことができる。 期限内にレポートを提出できる。
6	実験、研究	計画に基づく実験、研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 実験や研究に必要な知識を調べ、応用することができる。 研究や実験に必要な知識をレポートにまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験や研究に必要な計画を作成し、妥当性を検証したうえで実行することができる。 実験して得られた内容をレポートに分かりやすくまとめることができる。 実験の結果を考察できる。 考察した内容をもとに次回に向けて実験計画を立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究内容に関心を持ち、仲間と協力して研究に取り組むことができる。 期限内にレポートを提出できる。
7	実験、研究	計画に基づく実験、研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 実験や研究に必要な知識を調べ、応用することができる。 研究や実験に必要な知識をレポートにまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験や研究に必要な計画を作成し、妥当性を検証したうえで実行することができる。 実験して得られた内容をレポートに分かりやすくまとめることができる。 実験の結果を考察できる。 考察した内容をもとに次回に向けて実験計画を立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究内容に関心を持ち、仲間と協力して研究に取り組むことができる。 期限内にレポートを提出できる。
9	実験、研究	計画に基づく実験、研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 実験や研究に必要な知識を調べ、応用することができる。 研究や実験に必要な知識をレポートにまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験や研究に必要な計画を作成し、妥当性を検証したうえで実行することができる。 実験して得られた内容をレポートに分かりやすくまとめることができる。 実験の結果を考察できる。 考察した内容をもとに次回に向けて実験計画を立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究内容に関心を持ち、仲間と協力して研究に取り組むことができる。 期限内にレポートを提出できる。
10	実験、研究	計画に基づく実験、研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 実験や研究に必要な知識を調べ、応用することができる。 研究や実験に必要な知識をレポートにまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験や研究に必要な計画を作成し、妥当性を検証したうえで実行することができる。 実験して得られた内容をレポートに分かりやすくまとめることができる。 実験の結果を考察できる。 考察した内容をもとに次回に向けて実験計画を立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究内容に関心を持ち、仲間と協力して研究に取り組むことができる。 期限内にレポートを提出できる。
11	実験、研究	実験結果をもとに再度方向づけを行い、追加実験等を行い、実験結果を整理する。	<ul style="list-style-type: none"> 実験や研究に必要な知識を調べ、応用することができる。 研究や実験に必要な知識をレポートにまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験や研究に必要な計画を作成し、妥当性を検証したうえで実行することができる。 研究結果をもとに、再度方向づけを行い、不足している部分を追加実験し、考察できる。 実験して得られた内容をレポートに分かりやすくまとめることができる。 実験の結果を考察できる。 考察した内容をもとに次回に向けて実験計画を立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究内容に関心を持ち、仲間と協力して研究に取り組むことができる。 仲間と協力して結論や方向性を導くことができる。 期限内にレポートを提出できる。
12	実験結果 のまとめ	実験結果をまとめ、考察を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 実験や研究に必要な知識を調べ、応用することができる。 研究や実験に必要な知識をレポートにまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験や研究に必要な計画を作成し、妥当性を検証したうえで実行することができる。 研究結果をもとに、再度方向づけを行い、不足している部分を追加実験し、考察できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究内容に関心を持ち、仲間と協力して研究に取り組むことができる。 仲間と協力して結論や方向性を導くことができる。 期限内にレポートを提出できる。
1	発表会	発表会の準備、練習を行う。 発表会を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 実験や研究に必要な知識を調べ、応用することができる。 発表に必要な理論や知識を応用して発表に臨むことができる。 研究や実験に必要な知識をレポートにまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験や研究に必要な計画を作成し、妥当性を検証したうえで実行することができる。 研究結果をもとに、再度方向づけを行い、不足している部分を追加実験し、考察できる。 パワーポイントを用いてわかりやすく発表することができる。 実験して得られた結果をレポートに分かりやすくまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究内容に関心を持ち、仲間と協力して研究に取り組むことができる。 仲間と協力して結論や方向性を導くことができる。 仲間と協力して発表することができる。 質問に対して積極的に返答することができる。 期限内にレポートを提出できる。
2	抄録作成 まとめと 反省	課題研究抄録集を完成する。 班ごとに研究結果等について反省を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 抄録作成に必要な知識を調べ、理解することができる。 研究や実験に必要な知識をレポートにまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験で得られた内容をレポートに分かりやすくまとめることができる。 実験の結果から、考察できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究内容に関心を持ち、仲間と協力して研究に取り組むことができる。 抄録を作成することができる。 期限内にレポートや抄録を提出できる。

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
商業 ・ ビジネス基礎		情報デザイン科 ・ 1 年	2	ビジネス基礎 (実教出版)	全商ビジネス計算実務検定 模擬試験問題集3級・2級 ビジネス基礎問題集
科目の概要と目標		<ul style="list-style-type: none"> ・商業科に入学した意義をすると同時に私たちの経済生活のしくみについて学ぶ。 ・全商ビジネス計算実務検定3級、2級の合格に向け知識・技能を高める。 ・会計活用能力を高め、製品を作るために必要な費用の計算方法について学ぶ。 ・ビジネスを展開する力の向上を目指し、自ら学び、ビジネスの発展に主体的に取り組む力を身につける。 			
月	単 元	学 習 内 容	評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 ・ 5	第1章 商業の学習とビジネス 第6章 取引とビジネス計算	<ul style="list-style-type: none"> ・社会や産業全体の課題とその解決のために商号が果たしている役割、グローバル化する経済社会で職業人として求められる倫理観を育むことについて学ぶ。 ・商品に関する代価の計算、割合、度量衡・外国貨幣の換算、利益率、利息の計算などについて学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスが身近なこととして理解している。 ・電卓を使ってビジネス計算をする技術を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商業が果たしている役割、働くことの意義や役割を考察し表現できる。 ・ビジネス計算に関する知識と技術を身につけて表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の職業選択に不可欠な自己理解と職業の理解の方法の探求に主体的に取り組もうとしている。 ・ビジネス計算に関心を持ちその計算方法を積極的に学ぼうとしている。
6 ・ 7	第2章 ビジネスに対する心構え	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスを主体的合理的に行う上での信頼関係を構築する重要性、円滑に行う上での言葉遣いを基本とするコミュニケーションの意義について学ぶ。 ・企業活動において円滑にコミュニケーションを図るうえでの情報の重要性、企業活動に必要な情報の調査を入手することの重要性について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼関係を構築するための倫理観や法令順守などの共通認識が理解されている。 ・基礎的なビジネスマナーが身につけている。 ・情報収集の意義、他者との情報交換の重要性、効果的な入手方法を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスマナーを身につける意義を考え、望ましい心構えを自ら判断し、表現することができる。 ・情報を入手することを重要性を理解し、効率的に入手する方法を考案している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスマナーの習得に主体的に取り組もうとしている。 ・適切なコミュニケーションをとることで良好な人間関係を築こうとしている。 ・目的にあった情報の入手方法の探求など主体的にとり組もうとしている。 ・情報を入手することを重要性を理解し、効率的に入手する方法を考案している。
9 ・ 10	第3章 経済と流通	<ul style="list-style-type: none"> ・流通の役割について、生活水準の向上や生産の高度化などによる生産と消費の隔たりの拡大と関連づけて扱う。 ・売買取の業態の変化について扱う。 ・情報技術の進歩に伴う流通の効率化と最適化について具体的な事例で学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済の基本的な仕組み、需要と供給、売買取引等基礎的な知識を理解している。 ・流通の意義と役割について理解している。 ・流通を支えるさまざまなビジネス活動に関する知識を身につけ、理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・需要と供給・売買取引について身近な例を挙げながら考え、経済についての思考を深めていく。 ・生産と消費の隔たりをどのように埋めるかを思考していく。 ・様々なビジネスを活動について思考を深め、具体例などを用いて表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済の基礎的・基本的なしくみ関心を持ち、需要と供給・売買取引について用語や種類などを積極的にしたべルなど主体的に学習に取り組んでいく。 ・流通のいきや機能について関心を持ち主体的に取り組もうとしている。 ・様々なビジネスを活動について調べそれぞれの分類・役割・内容について調べ、主体的に取り組もうとしている。
11 ・ 12	第6章 取引とビジネス計算 第4章 企業活動	<ul style="list-style-type: none"> ・売買契約について学ぶ。 ・代金決済の手段としくみについて学ぶ。 ・電子商取引について学ぶ。 ・企業の形態と経営組織の種類と特徴、意思決定の流れ仕事の進め方について学ぶ。 ・マーケティングの基本について学ぶ。 ・資金の調達、会計処理、税について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・売買契約の履行と締結流れを理解している。 ・様々な支払い手段決済方法について理解し、能率的な活用方法についても理解している。 ・企業に関する知識を身につけ、理解している。 ・マーケティング基礎的知識を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・売買契約の履行と締結流れについて具体的に説明できる。 ・様々な支払い手段決済方法について理解し、能率的な活用方法についても説明できる。 ・企業に関する知識によって、どのような起業であるか説明できる。 ・マーケティングについても説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・売買契約の履行と締結流れについて主体的に取り組もうとしている。 ・様々な支払い手段決済方法について理解し、それぞれの特徴を積極的に調べ主体的にとり組もうとしている。 ・企業に種類経営理念、組織について関心を持ち、主体的に調べるなど取り組もうとしている。 ・マーケティングについても関心を持ち、主体的に取り組んでいる。
1 ・ 2 ・ 3	第5章 身近な地域のビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域の抱える課題について調査し考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域のビジネスにおいて必要とされる姿勢と課題への取り組み方を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域のビジネスに関する具体的な事例や課題を発見し、その対応策を考案している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域のビジネスに関する具体的な事例や課題について調べるなど主体的に学習に取り組んでいる。

教科・科目	対象学科 ・学年	単 位 数	教科書	使用教材	
商業 ・ 情報処理	情報デザイン科 ・1年	2	最新情報処理 Advanced Computing (実教出版)	全商情報処理検定模擬試験問題集2、 3級(実教出版) 全商ビジネス文書実務検定模擬試験問 題集2、3級(実教出版)	
科目の概要 と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を正しく活用するための基本的な知識を身につける。 ・コンピュータに関する基礎的な知識について理解する。 ・コンピュータの基本的な操作方法を習得する。 ・表計算ソフト・グラフ・データベース作成の必要性和作成方法について理解する。 ・ビジネス活動におけるコミュニケーション手段としてのビジネス文書作成方法を習得する。 ・株式会社設立に向けてプレゼンテーションの基礎について理解する。 				
月	単 元	学 習 内 容	評価方法		
			知識 技能	思考・判断 ・表現	主体的に学習に 取り組む態度
4月 ～ 7月	1章 企業活動と 情報処理 2章 コンピュータシステム と情報通信 ネットワーク	情報の意義と役割を理解し、そのために必要な情報モラルの考え方や態度について理解し、守るべき法規の必要性等を理解する。 コンピュータの基本的な機能と構成を理解し、ハードウェアとソフトウェアの種類と機能について理解するとともに、それを活用する基本的な技術を身に付ける。	コンピュータや情報通信ネットワークを活用して、ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、分析した結果を表、グラフ、画像などを用いて適切に表現する知識と技術を身につけようとしている。また、個人情報や知的財産の保護に留意して、情報を主体的に活用しようとする態度が備わっている。	ビジネスにおいて情報を効果的に活用するための情報処理の方法について考えようとしている。	情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
9月 ～ 12月	3章 情報の集計 と分析 4章 ビジネス文 書の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェアの基本的な操作を習得する。 ・関数の利用方法を習得する。 ・データベースの特性とその活用方法を理解する。 ・ワープロソフトウェアの技術を習得する。 	ビジネスに関する問題の発見と解決について、基礎的な技法を理解し、関連する技術を身に付ける。文書作成能力を身につける。	ビジネスに関する問題の発見と解決について、情報の提供に対する要求を分析し、科学的根拠に基づいて、表現し、評価・改善できる。	ビジネスに関する問題の発見と解決について、自ら学び、適切な情報の提供と効果的な活用について主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
1月 ～3月	5章 プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションを基礎について理解する。 ・プレゼンテーションを行う技法を習得する。 	プレゼンテーション活動の意義や役割を理解し、内容構成など、プレゼンテーションの準備から評価改善に至るまでの一連の流れや基礎的な技法を身に付ける。	プレゼンテーション活動の意義や役割を思考し、正しい判断で表現することができる。	プレゼンテーション活動に主体的に取り組むことができる。

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
商業 ・ 課題研究	情報デザイン科 ・3年	5	なし	
科目の概要 と目標	①卒業制作のための資料の収集・調査・分析を通して、社会の状況に広く目を向け、情報を取捨選択して処理する力を身につける。 ②プレゼンテーションにおける総合的な力を高めるとともに、コミュニケーション能力を高める。 ③様々なメディアにおけるデザイン技術や視覚伝達方法について理解し、制作する能力を身につける。			
学期	単元	学習内容	到達度目標	
1	卒業制作	○卒業制作の企画、立案 ○企画のプレゼンテーション ○企画の検討 ○資料の収集・整理 ○調査・分析 ○マーケティングリサーチ	卒業制作が3年間の学習の総まとめであることを理解し、高校生らしい発想や展開ができるよう基礎的な事項を理解して、制作することができる。 グループでの作業になるため、コミュニケーションを密接に取りながら取り組むことができる。 主題を明確にして制作に取り組むことができる。	
2	卒業制作	○調査結果の分析・解釈 ○コンセプトのプレゼンテーション ○デザイン展開・制作 ○校正・修正 ○ディスプレイの検討 ○最終プレゼンテーションの準備	コンセプト設定が、グループ内の共通理解を十分に図って決定することができる。 展開した発想を、具体的な内容として整理し収束することができる。 卒業制作がどの分野においても目的を促進するための視覚的な効果をねらった活動であることを理解し、コンセプトを反映することができる。 情報を整理し、見やすくわかりやすいディスプレイができる。 プレゼンテーションでの評価を基に改善点を確認することができる。	
3	北高展での展示発表 最終プレゼンテーション ポートフォリオ	○展示発表 ○最終プレゼンテーション ○ポートフォリオの作成	テーマ・コンセプトを伝えるプレゼンテーションであることを理解し、姿勢・動作・話し方など、相手に伝えるための技術を身につけることができる。 三年間の制作物を、見やすく美しく確認できるようにレイアウトする。	